

官報

號外 昭和十年一月三十日

○第六十七回衆議院議事速記録第八號

昭和十年一月二十九日(火曜日)

午後一時二十八分開議

議事日程 第七號

昭和十年一月二十九日

午後一時開議

第一 臨時利得稅法案(政府提出)

第二 日本銀行納付金法中改正法律案(政府提出)

第三 國際文化事業ニ關スル經費支辨ニ關スル法律案(政府提出)

第四 造幣局ノ廳舎、工場其ノ他ノ用ニ供スル建物及其ノ附屬設備ノ新營費ニ關スル法律案(政府提出)

第五 東京高等農林學校及函館高等水産學校ノ創設ニ伴フ帝國大學特別會計及學校及圖書館特別會計ノ關涉ニ關スル法律案(政府提出)

一 國務大臣ノ演說ニ對スル質疑(前會ノ續)

(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ掲載ス)

一 議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

産師法案

官報號外 昭和十年一月三十日 衆議院議事速記録第八號 議長ノ報告

提出者

土屋清三郎君 青木 亮貫君
斯波 貞吉君 一松 定吉君

(以上一月二十六日提出)

度量衡法中改正法律案

提出者

東 武君 山口 義一君
八田 宗吉君 福井 甚三君

度量衡法中改正法律案

提出者

荒川 五郎君 牧山 耕藏君
川淵 洽馬君 内藤 正剛君
本田彌市郎君 山本 厚三君
佐藤 與一君 福田關次郎君
一松 定吉君 松田竹千代君
青木 亮貫君 斯波 貞吉君
藤井 啓一君 高田 耘平君

度量衡法中改正法律案

提出者

山道 襄一君 岸 衛君
戸田 由美君

(以上一月二十八日提出)

去二十六日岡田内閣總理大臣ヨリ左ノ通發令アリタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

大藏書記官 大矢半次郎
同 木内 四郎
同 入江 昂

第六十七回帝國議會大藏省所管事務政府委員被仰付

一去二十六日辭任シタル常任委員左ノ如シ

第七部選出建議委員 平川松太郎君

一去二十六日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル常任委員左ノ如シ

第九部選出豫算委員 森 峰一君

一去二十六日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ

昭和十年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出)外一件委員

岡田 忠彦君 田邊 七六君
松村 光三君 廣瀬 爲久君
山田 又司君 小笠原三九郎君
堀川 美哉君 大口 喜六君
太田 正孝君 鷺野米太郎君
上田 孝吉君 玉置吉之丞君
大山斐瑛磨君 森 昇三郎君
森田 福市君 綾部健太郎君
金光 庸夫君 岡田喜久治君
山本 厚三君 後藤 亮一君
前田房之助君 小川郷太郎君
矢野庄太郎君 重松 重治君
中村 繼男君 伊豆 富人君
龜井貫一郎君

一去二十八日岡田内閣總理大臣ヨリ左ノ通發令アリタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

外務省通商局長 來栖 三郎

外務省文化事業部長 岡田 兼一

第六十七回帝國議會外務省所管事務政府委員被仰付

一去二十八日衆議院規則第十五條但書ニ依リ議長ニ於テ議席ヲ左ノ通變更セリ

一五七 鈴木辰三郎君
一七二 三善 信房君
一八四 野田 俊作君
二三四 則井萬壽雄君
二三五 神奈川縣第三區選出議員

一昨二十八日常任委員補選ノ結果左ノ如シ

第七部選出 建議委員 眞鍋 儀十君(平川松太郎君補闕)

第九部選出 豫算委員 由谷 義治君(森峰一君補闕)

一昨二十八日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ

昭和十年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出)外一件委員

委員長 岡田 忠彦君
理事 松村 光三君 鷺野米太郎君
岡田喜久治君 中村 繼男君

議長(濱田國松君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、御諮リ致スコトガアリマス、松岡俊三君病氣ニ付一月二十九日ヨリ二月七日マデ請假ノ申出ガアリマシタ、之ヲ許可スルニ御異議アリマセスカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可スルニ決シマシタ

此機會ニ於キマシテ、去ル二十二日工藤鐵男君ヨリ議長ニ對シマシテ、議長ハ黨籍ヲ離脱スルノ意思アリヤ否ヤト云フコトノ

御尋ガアリマシタ、今日之ニ對シテ御答ヲ申上ゲタイト存ジマス、議長ハ工藤君ノ御引用ニ相成リマシタ去ル五十議會ニ於キマシテ、正副議長ニ對シテ黨籍ヲ離脱スルコトヲ希望ストノ希望決議案ノ行ハレマシタ當時ノ特殊ナル院內事情、之ヲ考察ヲ致シマシテ、第二ニハ議長自身ガ有ツテ居リマスル議會政治、即チ政黨政治ニ關スル自己ノ信念ニ於キマシテ、議長ハ黨籍ヲ離脱スルノ必要ナシト決心ヲ致シマシタ(拍手)此段御含ミヲ願ヒマス

○工藤鐵男君 議長——議長

○議長(濱田國松君) 工藤君、如何ナル種類ノ御發言ノ御要求デアリマスカ

○工藤鐵男君 只今ノ議長ノ信念竝ニ院內事情ニ付テ重ネテ希望ガアリマス

○議長(濱田國松君) 議事ノ進行ニ非ザル限リハ、適當ノ御發言ノ御要求トハ存ジマセスガ、ドウ云フ手續デアリマスカ

○工藤鐵男君 重要ナル議長ノ職責ニ關スルコトデアリ、議事進行ニ取テハ極メテ重大ナル點デアリマスカラ、之ヲ確メタイノデアリマス

○議長(濱田國松君) 議事進行トアラバ許可致シマス

○工藤鐵男君 當席ヨリ發言ヲ致サセテ戴キマス

○議長(濱田國松君) 宜シウゴザイマス

○工藤鐵男君 議事ハ院內ノ當時ノ事情ト今日ノ事情ト異ルモノアリト云フコトノ御見解ノヤウデアリマス、勿論アノヤウナ事態ヲ今日マデ繼續スルコトガ嫌デアリマスカラ、前議長秋田清君ノ發言ニ依ツテ、議會振

肅委員會ヲ拵ヘタノデアリマス、當時ノ事情ト今日ト違フコトハ、確ニ前議長ガ議會

振肅ノ提案ヲ致シテ、委員會ニ於ケル所ノ決定ハ出來ルダケ速ニ實行シヨウ、又實行シタモノモアツタカラ、今日吾々ガ各自反省ヲシテ茲ニ至ツタコトハ私ハ承認致シマス、然ラバ私ハ、敢テ議長ニ問ヒマス、アナタハ絕對多數黨ノ有力者トシテ、其黨ヲ代表シテ振肅委員會ニ席ヲ有シテ、振肅委員會ノ決議ニ對シマシテハ、之ヲ實現スル所ノ義務ヲ有シテ居リマス、振肅委員會ハ何ト決定シテ居リマスカ、御忘れニナツタコトヲ喚起ス爲ニ私ハ茲ニ朗讀致シマス、第一ニハ議長ノ權限ヲ擴大スルコト、議長ノ權限ヲ擴大スル爲ニハ、議長其人ハ眞ニ神ノ如キ心ヲ以テ議長ノ席ニ坐ラナケレバナリマセヌ、若シ其權限ヲ徒ニ擴大シテ、不公平ナル處置、不公平ト見ラレルヤウナコトガアツテハ、議長ノ權限ハ暴君ノ如キモノトナルノデアリマス、故ニ議長ノ權限ヲ擴大スルコトモ決議致シマシタガ、同時ニ議長ニ對シテノ要求モアルノデアリマス、即チ己レノ所屬黨派ヲ脱シマシテ、眞ニ公平ト獨立ノ地位ニ立ツテ職務ヲ行ハシムルト云フコトデアリマス、隨テ議長副議長ノ地位ヲ高ムルト云フコトモ、第二ノ案件トナツテ決議サレテ居リマス、宮中ニ於ケル席次——總理大臣モ居リマスカラ、此點ハ篤ト御聽キヲ願ヒマス、議會政治ヲ尊重スルト云フ現内閣ニ於テ、此議長ノ地位ハ一地方長官ノ地位ニ及バザルコトガアルノデアリマス、故ニ吾々ハ立憲政治ノ有終ノ美ヲ濟サンガ爲ニ、斯様ナ點ニ注目ヲ致シ、此議長ノ地位ヲ高ムル爲ニハ何人ニモ護ラナイノデアリマスカラ、宮中其他ニ於テ一地方長官ニ及バザルガ如キ議長ノ地位ト云フモノハ、議會ノ神聖、議會ノ權能ヲ

大ナラシムル所以デハナイト考ヘマスルガ故ニ、斯様ニ要求スルノデアリマス、宮中ノ席次バカリデハナイノデアリマス、即チ選舉區ニ於テハ、議長ヲシテ選舉ヲ爭フ場合ニ於テ、無競争ノ地位ニ立タシメタイト云フノモ其一ツデアリマス、又議長退職後ト雖モ、優遇ノ途ヲ開クト云フノモ其一ツデアリマス、最後ニ議長副議長ノ就任シタ場合ニ於キマシテハ、茲ニ其言葉ヲ其儘朗讀致シマス、是ハ議會振肅要綱、濱田議長ガ其委員トナツテ、最モ熱烈ニ主張シタ一ツデアリマス、議長副議長ハ次回ノ總選舉ニ選舉ヲ用キズシテ當選セシムルコト、シ、且退職後ニ在リテハ相當優遇ノ方法ヲ講スルト共ニ、議長副議長ハ黨籍ヨリ離脱シ獨立公正ヲ保持セシメムト云フノデアリマス、アナタハ三十年間憲政ニ貢獻シタリト新聞ヲ發表シテ、最後ノ御奉公ニ衆議院議長トシテアナタノ總決算ヲスルト言ウテ居リマス、此黨籍ヲ離脱シテ議會ノ神聖ト、議長ノ地位ヲ獨立公平ノ地位ニ置クト云フコトニ御考ニナラスト云フコトハ、アナタノ立憲政治ニ對スル信念ニ於テ私ハ疑ガアルノデアリマス(拍手)斯様ナ點カラ考ヘマシテ、過去ハ過去ト致シマシテ、アナタガ議長ニナツテ、振肅委員會ノ席ニ列シマシテ、アナタノ御考ヲ以テ實行シ得ルモノスラモ、アナタハ實行ナサラスト云フコトデアアルナラバ、何人カ議長ノ信念ニ對シテ疑ヲ挾マザル者ガアリマセウカ、大ニアルノデアリマス、私ハ二十二日以來、具サニアナタノ行動ヲ見テ居リマス、一舉一動見テ居ルノデアリマス、頰杖ヲ突イテ發言者ニ忠告ヲ與ヘル如キハ、議長ノ尊嚴ヲ害スルモノデアリマス(ノー)「ヒヤ」又先般議長ガ

私ニ注意ヲ喚起スルニ對シ、青森縣何區選出工藤鐵男君ト呼ンデ吳レタノデアリマス、歐羅巴ノ例ニ於テハ、名譽アル場合ニ於テハ選舉區ヲ紹介シマス、併ナガラ議長ノ職權ヲ行フニ、斯ク吾輩ニ對シテスラ左様ナコトヲ言フナラバ、恐ラク所屬黨派ノ人々ニ對シテハ、左様ナルコトガアルデアラウト期待シテ居リマシタ、然ルニ先日ノ外務大臣ノ發言ニ對シ、アナタノ所屬黨派ノ幹部ハ悲キリ立ツテ、額ヲ赤クシテ數分間國務大臣ノ權能ヲ妨ゲタ事實ガアルノデアリマス、其時私ハ議席ヨリアナタニ注意ヲ喚起シタノデアリマス、當時ノアナタノ形ハドウデアリマシタカ、頰杖ヲ突イテ、政友會ノ議席ヲ見テ見又振りマシテ、聞イテ聞カザル振りマシテ、コッチノ方ニ額ヲ向ケテ居タノデアリマスガ、其時議長ハ正面ヲ向イテ議長ニ「靜肅ニ」、何タル言葉デアリマスカ、サウ言ツタデセウ、若シ吾輩ヲ議長ニ選舉區ヲ紹介シタラバ、福島縣何ノ誰、長崎縣何ノ誰ト云フコトヲ、私ノ目ノ前ニ於テ御指示ナサルガ宜イ、黨派ヲ離脱セザル感情ガ、アナタヲシテ不公平ナル處置ヲ執ラシメタ、是ハ此一週間に間ニ現ハレタ光景デアリマスカラ、斷ジテ議長ノ信念ニ對シマシテハ承服出來ナイ、即チ振肅委員會ノ決議ニ對シマシテモ斯様ニ考ヘテ居リマスカラ、重ネテ議長ハ立憲政治ノ爲ニ適當ナル考慮ヲ合セ考ヘラレンコトヲ、特ニ注意ヲ喚起致シマス

〔答辯ノ要ナシト呼フ者アリ〕

○議長(濱田國松君) 是ヨリ日程ニ入りマス、日程第一、臨時利得稅法案ノ第一讀會、前會ノ續ヲ開キ、質疑ヲ繼續致シマス、通告順ニ依ツテ發言ヲ許シマス——中島彌園次君

○議長(濱田國松君) 是ヨリ日程ニ入りマス、日程第一、臨時利得稅法案ノ第一讀會、前會ノ續ヲ開キ、質疑ヲ繼續致シマス、通告順ニ依ツテ發言ヲ許シマス——中島彌園次君

○議長(濱田國松君) 是ヨリ日程ニ入りマス、日程第一、臨時利得稅法案ノ第一讀會、前會ノ續ヲ開キ、質疑ヲ繼續致シマス、通告順ニ依ツテ發言ヲ許シマス——中島彌園次君

第一 臨時利得稅法案(政府提出)

第一讀會(前會ノ續)

(中島彌團次君登壇)

○中島彌團次君 私人只今提案サレマシタ所ノ臨時利得稅ニ付キマシテ、總理大臣、大藏大臣、商工大臣及陸軍大臣ニ向ッテ質問致シテ見タイト考ヘル次第デアリマス、此日本ノ今日ノ稅制ノ制度カラ考ヘテ見マシタナラバ、不勞利得ニ對シテ課稅スル所ノ制度ハ極メテ貧弱デアリマシテ、僅カ相續稅ト法人ノ超過所得稅ト、二ツアルバカシデアリマス、而シテ大正七年ヨリ實施サレマシタ所ノ戰時利得稅ガアリマシタケレドモ、是ハ現在ノ超過所得稅ニ變形サレマシテ、此中ニ織込マレテ來マシタカラ、此二ツノミガ不勞利得ニ對スル所ノ、日本ノ現在ノ課稅制度デアリマス、顧ミテ見マスナラバ、現在ノ日本ノ國ニ在リマシテハ、御承知ノ通り資本主義經濟組織デアリマシテ、富メル者ハ益、富ミ、貧シキ者ハ益、貧シクナルト云フヤウナ狀態デアリマシテ、殊ニ昨年ノ災害ガアツテ以來、農村ト都會ニ於ケル所ノ富ノ權衡ハ、著シク破壞サレマシテ、一方ニ於キマシテハ軍需景氣、爲替安ニ依ル所ノ輸出貿易ニ依ッテ利得ヲ得タ所ノ人々、其外金山其他ノ鑛業ノ發展ニ伴フヤウナ、斯ノ如キ所ノ景氣ニ依リマシテ、非常ニ利得ヲ得テ居ル者ガ他ノ一方ニアリマス、他ノ一方ニ於キマシテハ、其日ノ生活ニ困ルヤウナ狀態デアリマシテ、斯ノ如キ社會狀態ト云フモノハ、之ヲ革命的手段ニ依ッテ是止スルト云フナラバ、別問題デアリマスルケレドモ、立法的ノ手段ニ依ルト云フコトニ致シマスナラバ、租稅制度ニ依ッテ之ヲ、富ノ分配ノ平均ヲシテ行

クト云フコト、不公平ヲ直シテ行クト云フコトガ、私ハ最モ時宜ニ適スル所ノ手段デアルト云フコトヲ考ヘル次第デアリマス、(拍手)加之是等ノ問題ニ付キマシテハ、當ニ現在ノ日本ノ國ニ於キマシテ、稅制ノ要求バカシデハナク、即チ稅制ニ依ッテ富ノ分配ト云フコトヲ、公平ニシテ行クト云フコトノ理由バカシデモナク、一方ニ於キマシテハ赤字ガ益、澤山出テ參リマシテ、此議場ニ於キマシテモ屢々論ゼラレマシタ如クニ、如何ニシテ公債ノ増發ヲ止メテ行クカ、或ハ財源ヲ得テ行クカト云フコトハ、又公債ノ將來ガドウ云フヤウニナッテ行クカト云フコトニ付キマシテハ、屢々此議場ニ於テモ論ゼラレマシタ所デアリマス、斯ノ如ク歲入多々益、辨ズル時ニ當リマシテ、本臨時利得稅ヲ起スト云フコトニ付キマシテハ、私共ハ雙手ヲ擧ゲテ贊成スル所ノ一人デアリマス、而シテ贊成スルト云フ所ノ理由ハ何處ニ在ルカ、贊成スルニ致シマシテモ、政府ガドウ云フ考ニ依ッテ之ヲ作ラレタノデアリカ、又此稅率ノ盛リ方其他ノ點ニ付キマシテ、政府ノヤリ方ガドンナ考ヲ有ツトルカト云フコトニ付キマシテハ、十分私共ハ質問ヲシテ行ッテ見タイ

今日ノ景氣ヲ考ヘテ見マスルト云フト、屢々申サレマシタ如クニ、跋行的景氣デアリマス、即チ軍需品、軍需工業ノ景氣、爲替安ノ景氣、是等ノ景氣ガ主タルモノニナッテ居リマスルガ、下ノ程度ニ於テ景氣ガ起ッテ來テ居ルカ、ソコニ又下レダケノ點ニ於テ利得ガアルカト云フコトニ付テハ、是ハ詳細研究シテ見ナケレバナラナイ、景氣ヲ測定致シマスル所ノ係數カラ考ヘテ見マスレバ、金利ノ點カラモ論ゼラレマス、通貨

ノ點カラモ論ゼラレマス、會社ノ資本ノ新設、増設計畫カラモ論ゼラレマス、東京取引所ニ於ケル所ノ株式ノ取引高ニ依ッテモ亦論ゼラレマス、手形交換高ニ依ッテモ論ゼラレマス、爲替ノ點ニ於テモ論ゼラレマス、是等ノ七點若クハ八點ニ互ル所ノ經濟界ノ景氣ノ趨勢カラ遠觀致シテ見マスナラバ、昭和九年ノ景氣ハ何年前ニ於ケル所ノ景氣ニ當ッテ居ルカト云フコトヲ考ヘテ見マシタナラバ、數字ノ上カラ見テ見マシタナラバ、大正六年ノ景氣ヨリモ餘程宜シクツテ、大正七年ノ景氣ニ對シテハ少シ足ラナイト云フヤウナ數字ノ點ニ落付イテ居ルノデアリマス、併ナガラ是等ノ細カシイ點ニ付キマシテ申上ゲルト云フコトハ煩雜デアルカラ、私ハ申上ゲマセヌガ、今申上ゲマシタ通貨トカ、新設、増設、貿易、株式取引高、手形交換高ト云フヤウナ是等ノ點カラ觀察シテ見マスルト云フト、相當ニ昭和九年ノ景氣ハ出テ參ッテ居リマス、殊ニ法人ノ所得ニ至リマシテハ、昭和八年八十億ニ達セント云フヤウナ狀態デアリマシテ、昭和七年ノ八億ヨリモ更ニ二億ダケ多イヤウナ狀態デアリマス、サウシテ一方カラ申上ゲマシタナラバ、製造工業家ガドレ位ノ利得ヲ得テ居ルカト申シマスナラバ、昭和五年及六年ニ於キマシテハ、資本ニ對スル所ノ利廻ガ僅ニ四分乃至五分ト云フヤウナ程度デアリマシタガ、昭和九年ノ下半年ノ統計ヲ見テ見マスナラバ、此統計ハ或ル大手筋カラ手ニ入レマシタ極メテ正確ナル統計デアリマスルガ、製造工業デハ資本ニ對スル利益率ガ、約一割五分ニナッテ居リマス、全産業ヲ平均致シマスナラバ、一割七厘ト云フヤウナ程度ニナッテ居リマシテ、本稅ヲ課ケラレ

ル所ノ核心ガ何處ニアルカト言ツタナラバ、此製造工業デアリマス、製造工業ハ一割五分ノ資本ニ對スル收益率デアリマスルカラ、昭和五年若クハ六年ニ對シマシテハ、約三倍ダケノ收益率ガアルト言ウテ宜シイ、果シテ然ラバ茲ニ三倍ニ相當スル所ノ不勞利得ガアルト言ウテ宜シイ、固ヨリ是ハ勞ゼズシテ取ツタ所ノ利得バカシデハアリマセヌ、實業家ガ努力奮闘シテ得タル所ノ利得ニハ相違アリマセヌガ、時局ノ好影響即チ政府ノ政策及世界的ノ色々ナル變動、其他ノ原因ニ依リマシテ、此利得ガ生ジタト申シマスナラバ、不勞利得ノ分子ガ之ニ加ハッテ居ルト云フコトハ、是ハ當然ノ結果デアルト言ウテ私ハ宜シイト考ヘマス、此意味カラ致シマスナラバ、之ニ向ッテ課稅ヲスルト云フコトハ、是ハ當然ノコトデアリマシテ、政府ガ今日之ヲ提出スルコトガ遲イト言ウテモ、私共ハ宜イヤウナ狀況デアルト考ヘル、前ノ齋藤內閣ニ於テモ之ヲヤルベキデアッタト私共ハ考ヘマス、然ルニ拘ラズ第六十五議會ニ於キマシテ、我黨ノ川崎君カラ、軍需景氣ニ依ッテ金ヲ儲ケタ人ガアツタナラバ、其點ニ付テ課稅シタナラバ宜シイデハナイカト云フ所ノ質問ガアリマシタニ對シマシテ、高橋大藏大臣ハ、儲ケタ時ニ課ケルナラバ、損ヲ致シタ時ニハ減稅ヲシテヤラニヤナラヌト云フコトノ御答辯ガアツタ、此點ニ關シマシテ、本案ハ固ヨリ高橋大藏大臣ノ立案デアリマスルガ、前藤井大藏大臣ノ立案デアリマスルガ、責任ヲ以テ此議會ニ提出サレタ以上ハ、高橋大藏大臣ハ之ニ贊成致シ、之ヲ遂行スル所ノ義務ガアル、尙且ツ藤井前藏相ハ、所謂高橋財政ヲ繼グト云フ點ニ於キマシテ、

高橋サンノ精神ヲ承ケテヤラレタト考ヘマス、果シテ然ラバ、高橋大藏大臣ハ、第六十五議會ニ於ケル我黨ノ川崎克君ノ質問ニ對スル所ノ答辯ニ付キマシテ、其時ノ心境ト今日ハ御變リニナツタノデアリマセウカ、此點ニ付キマシテ高橋大藏大臣ノ明快ナル御答辯ヲ煩ス、次第デアリマス

更ニ斯ノ如ク致シマシテ本稅ハ不勞利得方茲ニ生ジテ居ル、兎モ角モ昭和五年、六年ニ對シテ儲ガアルト致シマスナラバ、之ニ課稅スルコトガ當然ノ結果デアルト云フコトヲ私共ハ考ヘルノデアリマスガ、本稅ハ政府ニ於キマシテハ、斯ノ如ク不勞利得ニ課スルト云フ意味ヲ以テ立案シタノデア

此壇上ニ於キマシテ、松村君及其他ノ人々カラモ論セラレタノデアリマスルガ、總理大臣ハ此點ニ付キマシテ、内政審議會ナルモノヲ設ケラレテ、此審議會ニ於キマシテ、第一ニ増稅ヲスルト云フ事ニ付テ審議スルヤ否ヤ、稅制整理ノ點ニ付キマシテモ亦其問題ト爲スヤ否ヤト云フコトニ付キマシテ、此壇上ニ於テ明言セラレンコトヲ希望致シマス

僅ニ九分シカ利得ガナカッタモノ迄モ一割ノ利得ニ見テアリマシテ、一分シカ開キヲ見テナイ、今度ハ四五分ノモノヲ七分ニ見テアリマスカラ、二三分ノ開キヲ多ク見テアル點カラ考ヘマシタナラバ、戰時利得稅ニ較ベマシテ、今度ノ臨時利得稅ト云フモノハ、餘程寬大ニ取扱ハレテ居ルト言ウテ宜シイノデアリマス、斯ノ如ク實際ニ於テノ法文ノ形式ニ於キマシテハ、昭和五年六年ノ事業成績ト、昭和十年、ソレ以降ノ事業成績トノ比較デアリマスケレドモ、適用ニ於キマシテハ七分ヲ基礎ト致シマシテ、此七分ニ適用スルト同ジコトニナツ

ルカ、不勞利得ニ課スルト云フ意味以外ニ、更ニ歳入ノ必要ニ依ツテ之ヲ課セントスルモノデアルカ、此點ニ付キマシテモ十分ナル御答辯ヲ戴キタイ、而シテ前大藏大臣ハ、公債漸減ノ方策ヲ執ラレテ居ッタノデアリマス、本稅ハ三千万圓若クハ四千万圓ト云フ所ノ少額デアリマスルケレドモ、公債漸減ノ方針ノ一端トシテ之ヲ課スル御考デア

而シテ此案ガ昨年十一月發表サレマシタ時ニ於キマシテハ、非常ニ世間ニ不人氣デアッタノデアリマス、其不人氣デアッタ理由ハ何デアアルカト申シマシタナラバ、此案自體ガ惡カッタノデハナクシテ、大藏當局ガ此取扱ヲ誤ッタノデアル、總理大臣ハ増稅ヲシナイト云フ所ノ明言ガアツテ、而シテ此増稅ガ現レタト云フコトノ結果ガアツテ、世間ハ之ヲ評シテ總理大臣ガ食言ヲシタト言ウテ

タ所ニ依リマス、十分ニ其決心ガ付イテ居ルノデ、是ダケノ税金ナラバ、決シテ現在ノ産業ノ發達ヲ障礙スルモノデアルトカ、或ハ産業ノ將ニ芽生エントスル點ヲ摘取スルモノデアルトカ云フヤウナ非難ハ、當ラヌモノデアルト考ヘル、寧ロ私共ハ此稅ガ輕キニ失シハセヌカト云フコトヲ考ヘル次第デアリマス、此點ニ付キマシテ、數項ニ互ツテ政府ニ向ツテ質問ヲシテ見タイノデア

リマス 第一、本稅ハ世間一般ニ於キマシテハ之ヲ誤解シテ居ル人ガアル、昭和五年、六年ト云フヤウナ世界的不景氣ニ遭ウタ其時ノ、少シモ利得ノナイ零ト、サウシテ現在ノヤウナ一割五分モ二割モ利得ノアルヤウナ状態ト比較シテ、サウシテ其利得ニ課ケルノデアアルカラ酷デアルト云フノデアリマスガ、零ニ對スル所ノ一割五分若クハ二割、三割ト云フヤウナ比較デハナイ、七分ト云フモノガ根本トナツテ居リマシテ、昭和五年、六年ニ於キマスル所ノ法人ノ利得ニ對シマシテハ、七分以下デアツテモ七分ト見テアル、一口ニ申上ゲマスナラバ七分ガ標準デア

アルカ、更ニ前大藏大臣ハ財政審議會ト云フモノヲ作りマシテ、豫算ニ見積テアリマシタ、今ハ削除シテアリマスルガ、更ニ是カラ財政、行政、殊ニ稅制ノ根本的整理ヲ行ハントスル其端緒ト致シテ、第一歩ト致シテ、本稅ヲ立案シタモノデアリマセウカ、高橋大藏大臣モ亦之ニ從ツテ、其方針ヲ將來稅制ノ整理ヲ行フト云フ御考デアリ

得ズ斯ノ如キ増稅ヲシナケレバナラナカッタト、斯ウ言ハレタ、是等ノ點カラ致シマシテ、増稅シナイト云フコトヲ言ウテ置イテ、後カラ増稅スルコトニナツタカラ、世間ガ非常ニ驚イタノト、モウ一ツハ大藏當局ガ斯ノ如キ増稅案ヲ提案スルト致シマシタナラバ、先ツ輿論ニ訴ヘル必要ガアツタト私ハ考ヘル、即チ突如トシテ、豫算閣議ノ始マラントスル前ニ於テ、昨年十一月頃ニ發表スルヨリモ、九月カ十月頃ニ發表致シマシテ、世間ニ訴ヘテ置イタナラバ、斯ノ如キ非難ハナカッタト考ヘマス、實業家ニ於キマシテハ、斯ノ如キ少額ノ稅額ナラバ、課ケラレテモ構ハヌト云フ決心ヲシテ居ル

コトハ、私共各地ヲ調査シテ參リマシテ承ツタ所ニ依リマス、十分ニ其決心ガ付イテ居ルノデ、是ダケノ税金ナラバ、決シテ現在ノ産業ノ發達ヲ障礙スルモノデアルトカ、或ハ産業ノ將ニ芽生エントスル點ヲ摘取スルモノデアルトカ云フヤウナ非難ハ、當ラヌモノデアルト考ヘル、寧ロ私共ハ此稅ガ輕キニ失シハセヌカト云フコトヲ考ヘル次第デアリマス、此點ニ付キマシテ、數項ニ互ツテ政府ニ向ツテ質問ヲシテ見タイノデア

リマス 第一、本稅ハ世間一般ニ於キマシテハ之ヲ誤解シテ居ル人ガアル、昭和五年、六年ト云フヤウナ世界的不景氣ニ遭ウタ其時ノ、少シモ利得ノナイ零ト、サウシテ現在ノヤウナ一割五分モ二割モ利得ノアルヤウナ状態ト比較シテ、サウシテ其利得ニ課ケルノデアアルカラ酷デアルト云フノデアリマスガ、零ニ對スル所ノ一割五分若クハ二割、三割ト云フヤウナ比較デハナイ、七分ト云フモノガ根本トナツテ居リマシテ、昭和五年、六年ニ於キマスル所ノ法人ノ利得ニ對シマシテハ、七分以下デアツテモ七分ト見テアル、一口ニ申上ゲマスナラバ七分ガ標準デア

マセウカ、此點ニ付キマシテモ、國民ノ一部ニ於キマシテハ疑ツテ居ル次第デアリマス、總理大臣ハ管テ増稅ヲシナイト言ウテ置イテ、増稅ヲ計畫シタト云フコトヲ、政友會ノ人々カラ咎メラレタコトガアリマス、

此壇上ニ於キマシテ、松村君及其他ノ人々カラモ論セラレタノデアリマスルガ、總理大臣ハ此點ニ付キマシテ、内政審議會ナルモノヲ設ケラレテ、此審議會ニ於キマシテ、第一ニ増稅ヲスルト云フ事ニ付テ審議スルヤ否ヤ、稅制整理ノ點ニ付キマシテモ亦其問題ト爲スヤ否ヤト云フコトニ付キマシテ、此壇上ニ於テ明言セラレンコトヲ希望致シマス

而シテ此案ガ昨年十一月發表サレマシタ時ニ於キマシテハ、非常ニ世間ニ不人氣デアッタノデアリマス、其不人氣デアッタ理由ハ何デアアルカト申シマシタナラバ、此案自體ガ惡カッタノデハナクシテ、大藏當局ガ此取扱ヲ誤ッタノデアル、總理大臣ハ増稅ヲシナイト云フ所ノ明言ガアツテ、而シテ此増稅ガ現レタト云フコトノ結果ガアツテ、世間ハ之ヲ評シテ總理大臣ガ食言ヲシタト言ウテ

得ズ斯ノ如キ増稅ヲシナケレバナラナカッタト、斯ウ言ハレタ、是等ノ點カラ致シマシテ、増稅シナイト云フコトヲ言ウテ置イテ、後カラ増稅スルコトニナツタカラ、世間ガ非常ニ驚イタノト、モウ一ツハ大藏當局ガ斯ノ如キ増稅案ヲ提案スルト致シマシタナラバ、先ツ輿論ニ訴ヘル必要ガアツタト私ハ考ヘル、即チ突如トシテ、豫算閣議ノ始マラントスル前ニ於テ、昨年十一月頃ニ發表スルヨリモ、九月カ十月頃ニ發表致シマシテ、世間ニ訴ヘテ置イタナラバ、斯ノ如キ非難ハナカッタト考ヘマス、實業家ニ於キマシテハ、斯ノ如キ少額ノ稅額ナラバ、課ケラレテモ構ハヌト云フ決心ヲシテ居ル

考ニナツテ居ルノデアリマセウカ、此點ヲ明確ニシテ載キタイ

第二ノ點ト致シマシテハ、臨時利得稅ト

戰時利得稅ト云フモノヲ比較研究致シマシタナラバ、本案ノ内容ガ能ク浮シテ參リマシテ、私共ノ疑問トスル點ガ澤山アルノデアリマス、第一ニ臨時利得稅ニ於キマシテハ戰時利得稅ト異リマシテ、法人及個人ニ付テ利得ノ意義及範圍ガ違フテ居ルノデアリマス、戰時利得稅ニアリマシテハ、法人ニ於テハ、法人ノ利得稅ト云フ點ニ付テハ、臨時利得稅ト同ジヤウナ意義ヲ有ツテ居リマスルガ、個人ニ於キマシテハ、所得稅ヲ課スベキ第三種ノ所得中、勤務所得ガ除ケラレテ利得ガ戰時利得稅ニ於キマシテハ課セラレテ居ルノデアリマシテ、船舶又ハ鑛山ニ關スル權利、若クハ設備ノ賣却ニ關スル點モ亦戰時利得稅ニハアリマスルガ、本利得稅ニハナイ、本稅ニハアリマセウデ、本稅ニ於キマシテハ、唯法人モ個人モ共ニ營業ノ利得ダケニ限ツテ居ル、隨テ茲ニ除ケラレテ來ルモノハ配當ノ所得デアリマス、配當ノ所得ノ如キハ、本臨時利得稅ニ付キマシテハ、課稅ノ範圍外ニナツテ居ルノデアリマスルガ、御承知ノ通りニ昭和五年六年ニ較ベテ、昭和十年ニ於ケル所ノ、若クハ昭和九年ニ於キマシテモ、有ユル配當ガ非常ニ増加シテ居ルコトハ、是ハ確カデアリマス、配當ノ所得ヲ何故ニ此課稅ノ範圍カラ除イタノデアアルカ、營利即チ營業稅ニ課セラルベキ營利利得ノミニ之ヲ限ツタノデアアルカ、此點ニ付テ吾々ハ頗ル疑問トシテ居リマス、固ヨリ配當所得ト致シマシテハ、株ハ轉換性ガアツテ、之ヲ調査スルノハ課稅技術上カラ困難デアルト云フコトモ一ツノ

理由デアリマス、又一方カラ考ヘマシタナラバ、配當ハ一旦法人ノ利益トシテ課セラレテ居リマスカラ、課スル必要ガナイト云フ理由ガ立ツテ參リマセウケレドモ、吾々ハ一方ニ於キマシテ、非常ニ儲ケテ、配當デ利得ヲ得テ居ル者ガアルニモ拘ラズ、他ノ方面ニ於キマシテハ、生活ニ困難シ、農村ノ救済ガ叫バレテ居ルト云フ今日ニ於キマシテ、配當金ヲ除外スルガ如キハ、社會通念上、私ハ許スベカラザルコトデアルト云フコトヲ考ヘル(拍手)單ニ之ヲ以テ課稅技術上ノ點カラ困難デアルト云フヤウナ理由ノ下ニ、配當利得ヲ本稅カラ除外スルト云フコトハ、私共ハ斷ジテ承服ガ出來ナイ所ノ一點デアリマス、更ニ第二ノ點ニ於キマシテハ、稅率ノ點デアリマスルガ、稅率ニ付キマシテ、戰時利得稅ニアツテハ、法人ニ對シテハ、個人ニ對シマシテハ、本利得稅ニアリマシテハ、法人個人共ニ稅率ガ一割宛ニナツテ居リマスルガ、何故ニ法人ト個人トヲ稅率ヲ同ジヤウニシタカト云フコトガ私共ハ分ラナイ、戰時利得稅ノ方ガ此立法カラ行キマシタナラバ、臨時利得稅ヨリモ私ハ進シデ居ルト考ヘル、法人ガ個人ヨリモ經濟力ガ強クテ、擔稅力ガ旺盛デアツテ、而シテ危險ニ對スル所ノ負擔能力ガ強イト云フコトモ、不景氣ノ時ニ於ケル對抗力ガ強イト云フコトモ、亦是ハ明デアリマスルカラ、戰時利得稅ノ方ニ於キマシテハ、法人ガ二割ニナツテ、個人ガ一割ノ稅率ニナツテ居ルノデアリマス、本稅ニ於キマシテハ、法人モ個人モ共ニ一割ニシテアル、其點ニ付テ何故ニ法人ト個人トノ稅率ヲ區別シナカッタカ、少クトモ個人ヲ一割ニスレバ、法人ハ一割五分ト云フ程度ニスベキガ私ハ當然デハナイカ

ト考ヘマス、殊ニ同ジ法人デアリマシテモ、今度ハ凸凹景氣デアリマシテ、儲ケテナイ法人モ多ク、一方ニ於テハ非常ニ利得ヲ得テ居ル法人ガアル、其點ニ付キマシテモ何等ノ參酌ヲシテ居ナイ、是ハ課稅技術上非常ニ困難デアリマセウカラ、全體ノ法人ヨリ一體ニ同ジ稅率ヲ盛ルト云フコトモ、是ハ已ムヲ得ナイデアリマセウガ、少クトモ個人トハ別ノ稅率ニ致シ、個人ノ倍ニスルカ、少クトモ五割増位ノ程度ニ法人ノ稅率ヲ多クスルト云フコトガ、當然デナイカト私共ハ考ヘルノデアリマス、而シテ超過所得稅ニ對シマシテハ、累進稅率ヲ盛デアリマスルガ、本稅ニ對シテハ比例稅ニナツテ、一律一體ニ一割ノ稅ヲ課スルコトニナツテ居リマス、獨逸ノ戰時利得稅ノ立法ヲ緝イテ見マスルニ、斯ノ如キ超過利得稅若クハ戰時利得稅ノモノニ於キマシテハ、累進稅率ヲ盛デアアルノデアリマスルガ、是ハ小ナル法人ト大ナル法人ト、即チ資本ノ大キイ法人ト、資本ノ小サイ法人トニ付キマシテハ、負擔能力ガ違ヒ、經濟能力ガ違フト云フ點カラ見マシテ、累進稅率ニナツテ居リマス、此點ニ於キマシテモ、法人ニ付テ資本ノ大キナ法人ト、資本ノ小ナル法人トニ付テ、累進稅率ヲ設ケタラ如何デアアルカ、或ハ稅率ヲ異ニシタラ如何デアアルカト云フコトニ付キマシテ、外國ノ立法例カラ參酌致シマシテモ、非常ニ是ハ意義ガアルコトデアリマスルガ、是等ノ點ニ付テ政府ハ如何ニ御考ニナルノデアリマセウカ、最近ニ於キマシテ資本課稅ノ觀念ガ入ツテ參リマシテ、亞米利加ニ於キマシテハ、エヌ・アー・エー運動ノ資本金ヲ得ンガ爲ニ、政府ハ昨年一箇年ニ限ツテ、法人ノ資本ノ千分ノ

一ヲ其資本ニ對シテ課稅ヲシテ居ルノデアリマス、資本課稅ノ觀念ガ今日ノ立法、即チ租稅立法ノ精神ノ中ニ餘程入ツテ來テ居ルヤウナ時勢ト致シマシタナラバ、小ナル資本ノ法人ト、大ナル資本ノ法人トニ付キマシテハ、是等ノ點ニ付テ十分ニ區別シ、參酌スルト云フコトガ當然デナイカト私共ハ考ヘルノデアリマス、更ニ其次ニ於キマシテハ免稅點ノ點ニ付キマシテ、質問ヲ致シテ見タイ、此法律案ニ於キマシテハ、個人モ法人モ共ニ二千圓ダケガ、免稅點ニナツテ居ルノデアリマス、二千圓ダケヲ個人モ法人モ控除スルコトニナツテ居リマス、戰時利得稅ニ於キマシテハ平時所得ノ二割ヲ控除スルト云フコトニナツテ居リマシテ、換言致シマスナラバ、戰時利得稅ニ於キマシテハ、定率控除主義ヲ採ル、本稅ニ於キマシテハ、定額控除主義ヲ採ル、戰時利得稅ガ定率控除主義ヲ採ルニモ拘ラズ、何故ニ本稅ニ於キマシテハ定額控除主義ヲ採ルノデアアルカ、此點ニ付テ大藏大臣ヨリ明確ナル答辯ヲ載キタイ、二千圓ヲ控除スルト云フ點ニ付キマシテハ、洵ニ私共ハ一體ニ二千圓ヲ控除スルト云フコトハ、無意義ナヤウニ考ヘマス、何故ナレバ百萬圓ノ利得ガアツテ者ニ對シテモ二千圓ヲ引クト云フコトハ、是ハ無意義ダ、六千圓ノ利得ガアツテ者ニ對シテ二千圓ヲ引クト云フコトハ、是ハ非常ニ有意義ダ、此點ニ鑑ミマシテ、一萬圓以上ノ所得ガアツテ者ニ對シテハ二千圓ヲ引キマシテ、一萬圓以下ノ者ニ對シテハ二千圓ヲ引カヌト云フヤウナ工合ニ、即チ大ナル者ヲ多ク取り、小ナル者ヲ保護スルト云フ、比較的小所得者ヲ保護スル意味カラ致シマシテ、一律一

體ニ二千圓ヲ引クト云フコトハ、是ハ殆ド意味ヲ成サナイト私共ハ考ヘマスルガ、此點ニ付テ如何ニ御考ニナツテ居ルノデアリマセウカ、サウシテ戰時利得稅ハ二割引クトナツテ居リマス、百萬圓儲ケタラ二割、即チ二十萬圓引カレル、一萬圓儲ケタラ二圓引カレルコトニナツテ、定率主義デ付テ居リマシタガ、今度ハ百萬圓儲ケタラ者デモ二千圓引ク、而シテ六千圓儲ケタラ者デモ二千圓引ク、其二千圓ノ百萬圓ニ對スル所ノ限界效用ト、二千圓ノ一萬圓ニ對スル限界效用トハ、非常ナ私ハ違ヒヲ有ツテ居ルト考ヘル、何故ニ定率主義ト云フモノヲ採ツテ定率主義ト云フモノニ反對シタルデアルカ、此點ヲ明ニシテ戴キタイ

更ニ法人ノ控除額ニ付キマシテ、非常ニ戰時利得稅ト違ツテ居ル所ガアリマス、戰時利得稅ハ一割ヲ引クトニナツテ居リマス、サウシテ今度ノ利得稅ニ付キマシテハ、七分ヲ引クト云フコトニナツテ居リマス、是亦此間ニ大ナル差異ガアリマスルガ、兎モ角モ戰時利得稅當時ニ於キマシテハ非常ニ儲ケガ多カッタ、今度ヨリズツト儲ケガ多カッタカラ一割引ク、今度ハ儲ケガ少イカラ七分引クト云フコトデアルカモ知レマセヌガ、此七分ト云フ意味ニ付キマシテ、何處ヲ標準トシテ七分ト算定シタルデアルカ、先ニ申シマシタ如クニ、昭和五年、六年ニ於ケル所ノ法人ノ平均ノ營業利得ト云フモノハ、是ハ五分デアリマス、大體五分デアリマス、私ハ此處ニ約千以上ノ法人ニ付テ計算ヲシタ所ノ利益ヲ持ツテ居リマスルガ、資本ニ對シテ大體四分乃至五分ト見タラ宜シイ、其四分乃至五分ニ對シマシテ二分ダケノ即

テ一方ニ於キマシテハ戰時利得稅ノ時ニハ九分ノ儲ケガアツタモノヲ、平均之ヲ一割ノ儲ケニ見テ居ル、此間一分ホカ開キヲ見テ居ナイ、戰時利得稅ノ時程今日ハ景氣ガ出テ居ナイカラ「マージン」ヲ餘計見ナケレバナラヌト云フ理由ナラ、七分ニシテ理由ガ立派ニ立チマスガ、ソコニ於テ問題トナリマスル點ハ「マージン」ヲ申シマシタナラバ、同ジヤウニ非常ニ儲ケタ法人ト儲ケナイ法人ガアル、試ニ擧ゲテ見マスルナラバ、硝子製造工業ノ如キハ三割九分ノ平均ノ儲ケヲ有ツテ居リマス、サウシテ其他ニ於キマシテモ、一割七分カラ二割五六分カラノモノモアレバ、九分カラ七八分ノモノモアル、甚シイモノハ四割以上ニ上ツテ居ルモノモアルデアリマス、是等ノ點ヲ一律

一體ニ七分控除スルト云フコトニ付キマシテハ、私ハ意味ヲ成サヌト考ヘル、此點ニ付キマシテハ少クトモ大ナル資本ノ法人ニ付テハ五分ダケヲ控除シ、小ナル資本ノ法人ニ付テハ七分ダケヲ控除スルト云フガ如クニ、是亦資本課稅ノ觀念ヲ入レマシテ、茲ニ控除率ニ付テ差異ヲ設ケルト云フコトガ、立法上適當デナイカト私ハ考ヘル、ソレカラ個人ニ付キマシテハ三千圓ヲ控除スルト云フコトニナツテ居リマスルガ、其個人ノ控除ノ三千圓ハ、是亦戰時利得稅ニ對シマシテ非常ニ違ツタ點デアリマス、戰時利得稅ハ二分ノ一ヲ控除スルト云フコトニナツテ居リマス、是カラ考ヘテ見マスルナラバ、此稅ト云フモノハ何時モ定率主義ヲ採ツテ居リマシテ、戰時利得稅ハ定率主義ヲ採ツテ居リマス、定率主義ト定率主義トノ利害得失如何、何故ニ本稅ニ限ツテ定率主義ヲ終始一貫御採リニナツタルデアルカ、定率主

義ヲ排斥サレタルデアアルカト云フ點ニ付キマシテ御答辯ヲ戴キタイ、此個人ニ付テ三千圓ヲ控除スルト云フ所ノ理由如何、個人ノ營業收益稅ヲ、課セラルベキ所得ガ大體平均致シマシテ、二千五百圓乃至三千圓位ニナツテ居ルト云フ點ヲ御採リニナツタカモ知レマセヌガ、三千圓ノ根據ハ私共解スルニ苦ミマス、此點ニ付キマシテモ御答辯ヲ戴キタイ

更ニ免稅點ノ件デアリマスガ、戰時利得稅ニ付キマシテハ、免稅點ガ三千圓ニナツテ居ルノデアリマス、即チ個人ノ利得ノ戰時利得ト平時利得トノ差引殘額ガ三千圓ナル時ニハ、戰時利得稅ニ於テハ稅金ヲ課ケナイコトニナツテ居リマス、本稅ニ於キマシテハ個人ノ利得ガ六千圓ヲ以テ免稅點トシテ居リマシテ、六千圓以上ノ利得ノナイモノハ、絶對ニ是ハ課ケナイ方針デアアル、六千圓以上ノモノニ向ヒマシテ此稅金ヲ課スルコトニナツテ居リマスルガ、戰時利得稅ノ時ト建前ガ違ツテ居ル、戰時利得稅ノ時ニハ戰時利得カラ平時利得ヲ差引イタ殘ツタモノガ足ラナケレバ、之ニ稅金ヲ課ケナイト云フ方針ニナツテ居リマスルガ、本稅ハ頭カラ六千圓以下ノモノハ、之ニ稅金ヲ課ケナイト云フ所ノ方針ニナツテ居リマスルガ、何故ニ六千圓ヲ標準トシタカ、此六千圓ハ非常ニ意味ガアリマス、恩給法ニ於キマシテモ六千圓ヲ以テ一ツノ限界ト爲シテ居ル、更ニ所得稅法第十五條ニ於キマシテモ、六千圓以下ノ所得ノ時ニハ、勤勞所得ニアツテハ二割ヲ差引クト云フコトニシテ居リマシテ、六千圓ト云フ點ニ付テハ立法上先例ガ多イデアリマス、斯ウ云フ先例ヲ追ツテ作ツタルデアアルカ、又中商工業者ノ所得ノ上カラ

如何ニ見タルデアアルカト云フコトヲ私共聽キタイ、中商工業ノ一般ノ利得ヲ、政府ハ六千圓ト見タモノデアアルカ、若シ六千圓ト見タモノナラバ、六千圓ニ課スルト云フコトハ、是ハ中商工業ノ私ノ壓迫ナルト思フガ、サウデナクテ三千圓若クハ二千圓位ノ程度ノモノヲ中小工業ト見マシタナラバ、此六千圓ハ高キニ失シテ、免稅點ガ五千圓デモ宜ケレバ、四千圓デモ宜イカモ知レマセヌ、之ニ付テ中商工業ニ付テノ利得如何、其利得ノ標準ヲナンボニ見タカト云フコトニ付キマシテ、中商工業者ニ對スル保護政策ヲ、政府ハドウ云フヤウニ考ヘテ居ルカト云フ所ノコトヲ、私ハ明ニサレタイト考ヘマス、六千圓ヲ以テ中商工業トスルノデアアルカ、ソレ以下ヲ以テ中商工業ト取扱ツタルデアアルカ、ソレ以上ヲ以テ中商工業トシテ、其點ヲ以テ境目トシタルデアアルカ、此點ニ付キマシテ政府ハ中商工業者ニ對スル利得ノ最高限度ヲ、ドウ云フヤウニ見タカト云フコトニ付テ伺ツテ見タイ

更ニ其次ニ於キマシテハ是等ノ點カラ觀察致シマスルコト云フト、本稅ノ歲入ノ見込デス、此歲入ノ見込ニ付テハ私共ノ算盤ヲ以テ歲入ノ見込ヲ致シマスナラバ、此歲入ノ見込ヲ平年度ニ於ケル所ノ四千萬圓、十年度三千万圓ト云フノハ、是ハ此歲入見込ト云フモノガ私ハ少額ニ失シハシマイカト考ヘル、少ナ過ギル、取り方ニ依リマシタナラバ、何千万圓ト云フ、金額ハ私ハ申シマセヌ、又ソレハ想像ニ當リ、推算ニナルノデアリマシテ、私ノ算盤シタ事ハ不正確カ知レマセヌガ、色々ノ點カラ之ヲ立論致シマシタナラバ、初年度三千万圓、平年度四千万圓ト云フコトハ、少シク低イ、何故

低イカト申シマシタナラバ、前ニ申シマシ
タヤウナ工合ニ、本年、昭和九年ノ景氣ト
云フモノハ、大正六年ノ下半年カラ大正七
年ノ下半年ノ景氣ト同ジ數字ガ出テ居ル、
同ジ數字ガ出テ居ルカラ、同ジ景氣ト云フ
譯ニモ參リマス、景氣不景氣ニ付キマ
シテハ、此數字ノ外ニ感じト云フモノガア
リマス、大正元年、二年カラ、ドカット出タ
彼ノ大正七年八年ノ景氣ト云フモノハ、國
民ガ痛烈ナ大キナ景氣ニ遭ッタヤウニ考ヘ
タ、併ナガラ昭和五年六年カラ段々景氣ガ
出テ來テ、本年度ノ景氣ニナツタコトニ付
キマシテハ、餘程景氣ハ出テ居ルケレド
モ、國民ハ左程感ジナイ、ソレハ七年八年
九年ト、ジク／＼起ッテ來タ景氣デアルカラ
デ、前ニ申上ゲマシタヤウニ通貨ノ膨脹、
會社ノ新設、株式取引高、手形交換高ト云
フ、是等ノ經濟界ノ推定ノ「バロメーター」
ノ點カラ較ベテ見マシタナラバ、餘程出テ
居ルノデアリマス、相當ノ景氣ハ出ルベキ
方面ニハ出テ居ル、殊ニ金利ガ安イト云フ
コトハ不景氣ヲ意味スル、金利ガ高イ時ハ
景氣ガ好イ、併ナガラ金利ガ低クテ、而モ
是ダケノ利得ガアルト云フコトハ、安イ金
利ヲ使ッテ儲ケル人ハ非常ニ儲ケテ居ルト
云フ意味デアル、一般ノ金利ノ低イト云フ
コトハ、即チ此景氣ガ惡イト云フコトノ推
定デアリマス、個人々々ヲ考ヘテ
見レバ金利ガ安クテ儲ケテ居ルト云フコト
ハ、金利ノ高カッタ時ノ儲ヨリ多イト云ッテ
宜シイノデアリマス、物價ノ點ニ付キマシ
テハ、大正五年六年ノ平均シタモノガ現在
ト大體同様ノ物價ニナツテ居リマス、物價ハ
餘リ騰ッテ居リマセヌ、即チ外國カラ輸入シ
タモノハ騰ッテ居リマスケレドモ、平均シタ

モノハ非常ニ騰リ方ガ少イ、隨テ貨幣價值
ノ變動ハ一割ソコ／＼シカ變動シナイ、大
シタ變動ハシテ居ナイ、是等ノ點カラ考ヘ
テ、此歲入見積ガ多イカ少イカト云ッテナラ
バ、非常ニ少イ、歲入ハ是ヨリモズツト取
レルト考ヘル、何故カト云フト、第一ニ戰時
利得稅ガ起ッタ時ニ於キマシテハ、政府ノ見
積ハ初年度ニ於テタツタ千八百萬圓デアッ
タ、驚イタデス、提出ノ豫算ガ大正六年ニ
於キマシテハ、タツタ千八百萬圓、ソレガ決
算ニ於テドレ位取レタカト云フト、八千
萬圓取レテ居ル、是程見込ガ違フ、斯ウ云
フ歲入ノ見積方モ恐ラク例ガナカラウト考
ヘルノデアリマス、當時ノ大藏當局ハ誰デ
アツタカ私ハ忘レマシタガ、八千萬元取レ
テ居ルモノヲ、千八百萬元シカ見積ッテ居ナ
イ、此點カラ考ヘマスルト驚クベキ數字ノ
見込違デアル、更ニ大正八年ガ五千二百萬
圓ノ豫算デアツタモノガ、驚ク勿レ一億六千
二百萬元取レテ居ル、五千二百萬元ニ對シ
テ一億六千二百萬元デアルカラ、三倍以上
ノ收入ガ取レテ居リマス、ソレハ大正九年
ニ於キマシテモ、二千八百萬元見積ッタモノ
ガ、三千四百萬元取レテ居ル、サウシテ大
正十年ニ戰時利得稅ハ廢止サレマシタガ、
十年ニ廢止サレテ以來、十二年ニ至リマス
マデ、十年ガ五百萬元、十一年ガ九百萬元、
十二年モ千三百四十萬元ト云フ工合ニ、合計
致シマス、二億四百萬元ノ豫算ニ對シマ
シテ二億八千七百萬圓取レテ居ル、七割以
上餘計取レテ居ル、七割ダケ大キク取レテ
居ルヤウナ狀況デアリマシテ、甚シキ時ニ
至リマシテハ、三倍モ取レテ居ル年モアル、
是カラ考ヘマスルナラバ、此本稅ガ三、四
千萬圓デハ納マリハシナイ、是ハ少クトモ

平年度ニ於キマシテ六千萬圓、ウツカリスル
ト七千萬圓マデ行クカモ知レナイ、私ハ斷
言致シマセヌガ、ソコニ一ツノ、昨年度カ
ラ今年度ハ掛ケマシテ、大藏當局ガ歲入見
積ニ付テ寬大デアッテ、而モ相當ニ是ガ増加
スベキ根據ノアル數字ヲ私ハ持ッテ居リマ
ス、即チ此超過所得稅ニ付キマシテモ、六
百萬圓程昭和五年ニ取レタモノガ、昭和八
年ニナリマシタナラバ、一千一百万圓超過
所得稅ガ取レテ居ル、此程度カラ、此上リ
工合カラ見テ居ルナラバ、本稅ト同ジヤウ
ナ主義、性質ヲ有ッテ超過所得稅ト云フモノ
ガ、六百萬圓取レタモノガ、現今ハ一千一
百萬圓、殆ド二倍取レテ居ル、是カラ考ヘ
マス、先々ノ歲入見積カラ考ヘテモ、本
稅ノ實績ハモット大キクナツテ來ルノデハナ
イカト考ヘル、更ニ法人ノ所得カラ考ヘテ
論ジテ見ルナラバ、法人ノ所得ガ昭和六年
ニ於キマシテハ七億デアリマス、昭和六年
ガ七億デアッテ、昭和八年ハ十億デアッテ、
昭和九年ハ何ボカ、私共ノ推算デハ恐ラク
十二億トナリマス、假令十億ト致シマシタ
所ガ、昭和六年ノ七億ト、昭和八年ノ十億
ト差引イタラ、三億アルカラ、其三億ノ一
割取ッタラ二千萬圓ト云フ見當ガ政府ノ見
積リガラウト私ハ考ヘマスルガ、十年ニ於
キマシテハ、恐ラク十二億圓位ニ上ッテ來ル
ノデハナイカト考ヘル、假令十二億ト致シ
マシタナラバ、昭和六年ノ七億ト差引致シ
マス、五億ダケ法人ノ所得ガ多クナツテ來
ルノデス、其ノ割ヲ取ッタラ五千萬圓ハ、是
ハ取レテ來ルト云フコトニナツテ居ル、少ク
トモ三四千萬圓以上ト云フコトハ是ハ確カ
デアリマス、更ニモウ一ツハ課稅技術ト云
フモノガ非常ニ發達シマシテ、御承知ノ通

リニ大正七年、八年ノ頃ノ課稅技術ヨリ非
常ニ發達致シマシテ、苛斂誅求、巧妙ヲ極
メルヤウニナツテ居ル、是カラ考ヘテ見マシ
タナラバ、本稅ノ見積ノ平年度四千萬圓、
初年度三千万圓ト云フモノハ、是ハ低キニ
失スルノデアッテ、此點カラ考ヘテ見マス
ト、本稅ハ少クトモ平年度六七千萬圓、初
年度四五千萬圓ニ行クノデハナイカト云フ
所ノ私共ハ觀察ヲ下ス次第デアリマス、尙
ホ此點ニ付キマシテハ、詳細ナル數字ノ根
據ヲ持ッテ居リマスルガ、此處ニ發表スルコ
トノ出來ナイノヲ遺憾トスル次第デアリマ
ス
而シテ其次ニ於キマシテハ、本稅ノ一ツ
ノ功績ト云フベキハ何デアアルカト申シマス
ルナラバ、製鐵業ノ如キ莫大ナル利益ヲ食ッ
テ、此景氣ノ中ノ最モ好イ景氣ノ會社ニ數
ヘラレテ居ル所ノ製鐵業ニ對シマシテ、今
迄ハ營業收益稅及所得稅ガ免ゼラレテ居リ
マスルガ、本稅ニ限ッテ之ニ課スルコトニ
ナツタト云フコトハ、寔ニ結構ナコトデアリ
マス、更ニ公債ノ利子ニ付キマシテモ、本
稅ニ付キマシテハ控除シナイ、金融資本家
ニ對シテ媚ビ諂ハナイト云フ所ノ、斷乎ト
シテ之ヲ彈壓スル大藏當局ノ意氣ハ此點ニ
於テ私ハ買ッテヤラナケレバナラナイト考
ヘル、此二ツノ點ハ此本稅ノ大出來デア
ルト考ヘル
町田商工大臣ニ御尋申上ゲマスルガ、現
在ニ於キマシテ製鐵業ハ非常ニ盛ニナリ、
銑鐵ハ御承知ノ通りニースチールニ對シテ
半分ト云フノガ普通ノ値段デアリマスル
ガ、世界的軍需景氣ノ旺盛ナルニ伴ヒ
マシテ、大變ニ此ースチールノ方ガ騰貴
シテ居リマシテ、銑鐵ニ對スル所ノ倍ト

云フノガ是ガ普通ノ採算デアリマスガ、ソレ以上ニ騰貴致シ、銑鐵ト云フモノ、需要ガ非常ニ多クナツテ、製鐵業ノ利得ト云フモノガ、一割五分カラ二割以上ニ達スルヤウナ會社モアルヤウナ状態ニナツテ居リマス、此状態ニ對シマシテ、從來之ニ對シテ製鐵獎勵法ヲ拵ヘ、營業收益稅ト所得稅ヲ免除シテアリマシタガ、此營業收益稅、所得稅ヲ免除セズニ課稅スル所ノ、所謂製鐵獎勵法ニ付テ免除規定ヲ廢止スル所ノ御意見アリヤ否ヤ

更ニ銑鐵ノ不足ハ大變ナモノデアリマシテ、今日之ニ付キマシテノ數字ハ煩雜ニ互リマスカラ止メマスガ、關稅改正ノ意思アリヤ否ヤ、即チ關稅ヲ引下ゲル所ノ意思アリヤ否ヤ、此點ニ付キマシテ町田商工大臣ニ御尋スル次第デアリマス

更ニ本稅ノ施行期ノ問題デアリマスルガ、施行ノ期間ニ付テハ本法ハ明記シテナイ、戰時利得稅ニアリマシテハ、講和條約締結ノ時限リトアリマシテ、講和條約締結サレマシタナラバ、直チニ本稅ハ廢止サレルコトニナツテ居リマシタガ、此稅ニ付キマシテハ臨時利得稅ト書イテアル位ダカラ、全體ノ法文ヲ讀ンデ見マシタナラバ、臨時ト云フコトガ明確デアリマセズ、隨テ臨時ト云フモノハ二年續クカ、三年續クカ、四年續クカ分ラナイ、此點ニ付キマシテ政府當局ハ凡ソ何箇年間ヲ豫定シテ居ルノデアルカ、臨時ト云フ意味ハ、次ノ財政經濟及、殊ニ稅制ノ整理ノ時マデヲ意味シテ居ルノデアルカ、或ハ今日ノ政策、即チ「インフレ」政策、殊ニ軍需景氣、此點ニ付テ陸海軍ノ豫算ガ現在ノ程度ヲ維持シ、而シテ爲替ガ現在ノ程度若クハ是ヨリ暴落シテ、

輸出貿易ト云フモノガ阻害サレズニ順調ニ發達シテ行クト云フコト、是等ノ點ニ付キマシテ、現在ノ政策ト現在ノ經濟状態ト云フモノヲ豫想シテ、是ガ續ク限リヤラレルノデアアルヤ否ヤ、此點ニ付キマシテ施行期間ニ付テ凡ソドレ位ノ所ヲ著眼セラレテ居ルノデアアルカ

更ニ臨時デアリマスルカラ、經常的ノモノデアリマセズ、是ガ廢止サレタ時ニ於キマシテハ、超過所得稅ノ中ニ再ビ織込マレテ、而シテ超過所得稅ノ稅率ヲ增加シ、或ハ個人ノ場合ハ營業收益稅ニ付キマシテ、營業收益稅ノ累進的稅率ノモノ、中ニデモ之ヲ織込シテ行クノデアアルカ、法人ノ場合ハ超過所得稅ノ中ニ織込シテ行クノデアアルカ、即チ戰時利得稅ガ超過所得稅ニ織込マレテ行ク如キ運命ヲ本稅ガ迎ルノデアアルカ否ヤ、此點ニ付キマシテノ政府ノ御觀測ヲ承リタイ

而シテ本稅ノ施行區域ノ問題デアリマスルガ、是ハ内地ハ固ヨリ臺灣、關東州及朝鮮ニ於テ施行サレルコトニナツテ居リマス、朝鮮ニ於テ施行サレハ法人ノ場合ニ於テ施行致シ、個人ノ場合ニ於テハ施行ガナイ、其理由ハ朝鮮ニ於テハ個人ノ所得稅及營業收益稅ガ昭和五、六年ニナカッタカラ、標準ガナイト云フ理由デアリマスルガ、何等カ茲ニ標準ヲ設ケテ課スル所ノ必要ガアラウト思ヒマスガ、朝鮮ニ於テキマスル是等ノ點ニ付テ如何ニ御考ニナルカ、茲ニ南洋ニ於テキマシテハ此稅ガ施行サレヌコトニナツテ居リマス、隨テ此時局ノ莫大ナル利益ヲ得タ所ノ南洋興發株式會社ト云フモノガ本稅カラ除外サレルコトニナリマス、是等ノ點ニ付キマシテモ、一會社ノ問題デアリマスルケ

レドモ、兔ニ角大ナル儲ノアル會社ガ除外サレルト云フコトハ、是ハ所謂他ノ會社ニ對スル公平ノ上カラ考ヘマシテモ、南洋ニ對シテ何等カノ方法ヲ以テ本稅施行ノ方法ヲ講ズルノ意思アリヤ否ヤ、是等ノ點ニ付テ御答シテ戴キタイ

更ニ最後ニ陸軍大臣ニ質問致シタイノデアリマス、陸軍ノ豫算ヲ見テ見マスルニ、作戰資材、即チ國防充備費ノ昭和十年度ニ於キマスル所ノ豫算ガ、一億一千六百萬圓ト云フ所ノ莫大ナル豫算ヲ計上サレテ居リマス、更ニソレガ昭和十一年度ニ於キマシテハ、僅ニ一千七百萬圓、一億一千六百萬圓ガ一千七百萬圓ニ減少スルヤウナコトニナツテ居リマス、僅カ一割ソコト云フヤウナコトニナツテ居リマスルガ、一億一千六百萬圓ガ一千七百萬圓ニ減少サレマシタ時ニ當リマシテ、本稅ニ謂ユル利益ヲ得ル所ノ會社ハ何デアアルカト云ツタナラバ、大部分軍需工業ノ會社デアリマス、此豫算ヲ以テ致シマスナラバ、即チ一億一千六百萬圓ガ一千七百萬圓ニ下ツタスルナラバ、軍需工業ノ大動搖トナリ、而シテ軍需工業界ニ於ケル所ノ利得ノ減少トナツテ、本稅ノ豫期スル所ノ利得ハ得ラレナイカモ知レナイ、斯ル點ニ付キマシテ陸軍大臣ハ民間工業能力ノ維持發達ノ點ニ付テ、而シテ本稅トノ關係ニ付テ如何ナル政策、如何ナル考ヲ有スルヤ、此點ニ付キマシテ陸軍大臣ノ明快ナル答辯ヲ要求スル次第デアリマス

最後ニ此本稅ハ御承知ノ通り此内閣ガ出サレマシタ唯一ノ重大ナル政策デアリマシテ、之ヲ契機ト致シマシテ、稅制整理ガ行ハレルカ、増稅ガ行ハレルカト云フ所ノ重大ナル問題ノ是ハ出發點デアリマス、此意

味カラ考ヘマシテ、此法案ト云フモノハ本議會ニ於テハ重大ナル意義ヲ有ツテ居リマス、而シテ此法案ガ若シ握リ潰サレルカ、或ハ否決サレマシタ時ニ於キマシテハ、政府ハ如何ナル態度ヲ採ルカ、換言スレバ衆議院ヲ解散致シ、斷乎トシテ國民ニ問フ所ノ意思アリヤ否ヤ、之ヲ總理大臣ニ對シテ質問致シタイノデアリマス(拍手)

○國務大臣(岡田啓介君) 中島君ノ御質問ニ御答致シマス、私ハ國民負擔ノ均衡ヲ得セシメル爲メ稅制整理ヲ致シタイト考ヘテ居リマス、稅制整理ヲ致シ場合ニハ、此臨時利得稅ハ同時ニ考ヘナケレバナラヌ問題ト考ヘテ居リマス、只今一般的増稅ヲ爲ス意思ハ有ツテ居リマセズ、又此臨時利得稅法案ハ必ず御協賛ヲ得ルコトガ出來ルモノト固ク信ジテ居リマス

○議長(濱田國松君) 大藏大臣ハ只今用便中デアリマスガ、商工大臣、此場合御答ニナリマスカ、如何デアリマスカ

○國務大臣(町田忠治君) 大藏大臣ノ答辯ニ關聯シテ居リマスカラ、大藏大臣ニ先ニ願ヒマス

○議長(濱田國松君) 今直キニ大藏大臣ハ見エマス

○國務大臣(高橋是清君) 中島君カラ數箇條ニ互ツテノ御質疑デアリマス、之ニ對シテ一應御答ヲ致シマス、最初ニ私が嘗テ六十五議會ノ豫算委員會ニ於テ、川崎君ノ御尋ニ對シテ御答ヲ致シタコトガアル、其答辯ヲ引イテ、今日ハ私ノ考ガ變ツタノカト云フ御尋デアリマスガ、其當時ハ不景氣ガ

段々直り掛ッテ、慥カアノ時ノ例ニ取りマシタノハ、鋼管會社ノ事ヲト記憶シテ居マスガ、此會社ハ管テ鋼鐵業ニ付テ國策ヲ立テントシテ研究ヲシタ當時カラ、此製鐵事業ニハ大關係ノアル會社ト見テ居ク一ツデアリマシタ、然ルニ段々打撃ヲ受ケテ、一般經濟界ノ不景氣ニ連レテ、或ハ減資ヲシタリ、サウシテ相當ナ有價證券トシテ、多クノ人ガ安心シテ持ッテ居クモ、殆ド無價値同様にマデ下ツタト云フコトヲ、其時分ニ記憶シテ居リマシテ、斯様ナ場合ニ於テ、是ハ國家トシテ有益ナ産業デアルカラシテ、國ガ何カ補助デモスルトカ云フコトデモスレバ、ソレガ回復シタ時ニ、直チニ課税スルモ宜カラウケレドモ、隨分其事業ニ關係シテ居ク株主ト云フモノハ、損ニ損ヲ重ネテ來テ、漸ク此一年バカリ稍、見直サシカトスル所ニ來テ居ルノニ、ソレニ直チニ稅ヲ課スルト云フノハ、如何ニモ慘イ話デ、且ツ折角伸ビントスルモノヲ沮喪サセルヤウナコトニナルカラシテ、是ハ直チニ今直グ課税スルト云フ考ハ有ッテ居ラス、特別ノ課税ヲ今直グニスルト云フコトハ、餘程考モノデアルト考ヘテ、其積リデ御答ヲシテ居クデアリマス、然ルニ今日デハ其以來益、繁昌シテ、今日ノ姿ニナツテ居ルノデアリマスルカラシテ、此六十五議會ニ於テ御答辯ヲシタ當時今日トハ、大層有様ガ變ッテ居ルト云フコトデアリマスノデ、今日デハ私ハ特別ノ稅ヲ課スルト云フコトニ付テ、何等異存ハ有タヌノデスソレダケヲ御答シテ置キマス

ソレカラ不勞所得ト云フヤウナコトマデ色論ジラレマシタガ、申ス迄モナク此度ノ臨時利得稅ハ、一般ノ稅制ヲ是カラ整理スルト云フ、其第一歩トシテ踏出シタモノデハナイデアリマス、ソレ故ニ之ニ續行シテ稅制整理ノ考ガアルカト云フ御尋デアッタヤウデスガ、稅制整理ノ一般ノ改正ハ、是ハ屢、申シテ居ル通り、其時機來レバ宜シキ方法ヲ選ンデヤラネバナラスト云フコトハ屢、申シテ居ル、今日未ダ其時機ニ到ラズト云フコトモ申シテ居ルノデアリマス、此臨時利得稅ガ、即チ今謂フ所ノ一般ノ稅制整理ニ一歩ヲ踏出シタモノダト、斯ウ御了解ナサレルノハ、此稅ヲ設ケタ政府ノ考トハ少シ違ヒマス、稅制整理ト云フモノハ、時ガ來タナラバ然ルベキ方法ニ依ッテ一般ノ課税スルト云フコトハ、屢、政府ノ聲明シテ居ル通りデアリマス

ソレデ今度ノ臨時利得稅ヲ創設シタ所ノ理由ニ付テ申上ゲマスルガ、此理由ハ、今時局ノ好影響ヲ受ケマシテ一部ノ産業ガ活況ヲ呈シテ居ルノデアリマス、而シテ其利益モ隨分多ク擧ゲテ居ルヤウデアリマス、ソレ故ニ其特別ナ事情ノ下ニ惠マレテ、今日利益ヲ擧ゲテ居ル者ノ、其利益ノ一部ヲ納稅セシメテ、サウシテ之ヲ國庫ノ收入ニシヨウ、斯ウ云フ考ニ外ナラヌノデアリマス、又財政ノ健全ナルト云フコトハ、是ハ何人モ希望スル所デアル、是ハ屢、私モ明言シテ居ル問題デアリマス、ソレ故ニ此臨時利得稅モ、幾ラカ其國庫ノ收入ヲ殖ヤスニハ違ヒナイ、ケレドモ内外ノ今日ノ情勢ニ依ッテ、此財政上ノ收支ノ均衡、即チ平衡ヲ速ニ實現セントスルコトハ、極メテ困難ナ問題デアリマス、故ニ此利得稅ヲ以テ此困難ナル問題ヲ解決スルト云フ目的デ起シタモノデハナイ、故ニ健全財政ノ策ヲ立ツルノ第一歩ナリト御覽下サルト云フト、私共

ノ考トハソコニ相違ガ起ツテ來ルノデアリマス
ソレカラ其次ニハ、法人ニ付テハ、寧ロ現ニ行ハレテ居ル所ノ超過所得稅ノ改正ヲシタ方宜クハナイカト云フ御尋デアリマス、法人ノ超過所得稅ハ、何業ニ拘ラズ法人ノ利益ガ一定ノ資本ノ利廻ヲ超エタル場合ニ、一般的ニハ課税スルモノデアリマスルガ、本稅即チ此一時ノ利得稅ハ、時局ノ影響ニ依リマシテ、増加シタル、其利益ニ課税スルモノデアリマシテ、課税ノ根本觀念ガ違ッテ居ルノデアリマス、即チ超過所得稅ノ納稅者ノ中ニハ、時局ニ依ル所ノ増益ヲ受ケル者モアリマセウシ、又受ケナイ者モアル、或ハ利益ノ却テ減ッテ居ル者モアリマセウ、斯ウ云フ考ニ對シテ一般的ニ超過所得稅ノ増徴ヲ爲スト云フコトハ、ドウモ適當デナイノデアリマス、畢竟稅ノ本質ヲ異ニシテ居ルノデアリマスルカラ、決シテ是ガ重複課稅トハナラスノデアリマシテ、第四ニハ、何故個人ノ配當所得ヲ除外シタカト云フ御尋デアアル、個人ノ配當所得ハ時局ノ影響ニ依ッテ増加シタノモアリマセウ、併ナガラ此個人ノ配當所得稅ヲ、本稅ノ課稅ノ對象ト致シマスルト、負擔ノ實情ニ副ハザルモノガ起ッテ來ルノデアリマス、且ツ是等ノ所得ハ、法人ノ利益トシテ課稅ヲ受クルガ故ニ、法人、個人ヲ通ジテ之ヲ見マスレバ、相當ノ負擔トナルベク、ソレ故ニ之ヲ除外スルト云フコトヲ、最も適當ト認メタノデアリマス、戰時利得稅ノ例ヲ御引キニナリマスルガ、戰時利得稅ノ當時ニ於キマシテハ、所得稅ニ於テ其配當ヲ個人ニ綜合課稅スルト云フコトニハナッテ居ラナカッタ、其當時ニ於テモ、個人ニハ課稅

ヲ戰時利得稅ニ於テハシナカッタノデアリマス
第五ニハ、法人ハ個人ニ較ベレバ擔稅力ニ富ンデ居ルニモ拘ラズ、法人、個人ニ稅率ヲ同ジヤウニシタト云フノハドウ云フ譯カ、法人ニ付テモ矢張大資本ニ重ク稅ヲ課スルノガ適當デヤナイカ、斯ウ云フ御趣意ノヤウデス、併シ法人ハ個人ニ較ベテ擔稅力ガ必シモ大ナリト云フ譯ニモ行カナイ、而シテ此性質ガ臨時稅デアアル、此本稅ニ於テ特ニ此法人、個人、兩者ノ稅率ヲ區分スルト云フ必要ヲ認メナイノデアリマス、又法人ニ對シマス累進稅率ノ適用ニ付キマシテハ、現在既ニ超過所得ニ對シテ累進稅率ヲ適用シテ居リマス、ソレ故ニ其負擔ヲモ考ヘマシテ、本稅ノ臨時稅率ノ性質ニ鑑ミテ之ヲ課ケナイノデアリマス

第六ハ、控除額ヲ法人、個人共ニ區別ナク二千圓トシタノハドウ云フ譯カ、大利得者ニ對シテモ二千圓ヲ控除スルハ、殆ド意味ヲ爲サズデヤナイカト云フヤウナ御考デアリマス、此二千圓ヲ控除致シマスルノハ、主トシテ少額利得者ノ負擔ヲ緩和スルト云フ其目的ニ出テ居ル、モウ一ツハ臨時稅ノコトデアリマスルカラシテ、稅務ノ實際上ニ於テ、官民相互ノ煩瑣ヲ避ケルト云フノモ一ツノ考デアリマス、ソレ故法人ニ付テモ一様ニ之ヲ二千圓ダケヲ控除スルト云フコトニ致シタノデアリマス、元々小利得者ノ爲ニ設ケラレタモノデアリマスガ、併ナガラソレガ爲ニ大利得者ニハ之ヲ引カナイデ宜イト云フ譯ニハ行キマセヌカラ、矢張之ヲ除外セズニ差引クコトニ致シタノデアリマス

第七ニハ、昭和五年、六年、此平均利率ガ標準ニナッテ居リマス、對象物ニナッテ居

リマス、是ハ昭和五年、六年ノ平均利益ト云フモノハ、少額ニ過ギルノデアリマス、不景氣ノ時デアリマシタカラ、ケレドモ法人ニ對シマシテ其金額ヲ基準トシテ課稅利得ヲ算出致シマスルト、如何ニモ負擔ガ過重ニナルノデアリマス、其懼ガアルノデアリマス、ソレ故ニ資本金額ノ一定割合ヲ平均利益ト看做スコト、シタノデアリマス、即チ其資本ハ積立金一切、サウ云フモノヲ含シテ資本、而シテ其當時事業界ノ平均利率ハ御話ノ通り先ヅ大抵五分位デアッタラウ、四五分デアッタラウ、ソレデハ甚ダ少イ利益デアリマスカラ、ソレヲ參酌シマシテ尙ホ當時ノ利益ハ好景氣ニナレバ、モウ少シ利益ガアルベキ筈ノモノデアリマスカラ、其負擔ニ於テ幾分ノ餘裕ヲ存セシメテ、大體先ヅ七分ノ利益ガアルモノト假定シマシテ、サウシテ對象物トシタノデアリマス、サウ云フ譯デアリマスカラ、資本ノ大小ニ依ツテ差別ヲ付ケルト云フコトハ、ドウモ適當デナイト考ヘマス

第八ノ御質問ハ、個人ニ付テ昭和六年以前二箇年ノ平均利益ト看做シタル理由ヲ申上ゲマスガ、不景氣ノ當時デアリマスカラ、若シ個人ノ平均利益ガ少イ場合ニ於テハ、其金額ヲ基準トシテ課稅シマスルト云フト、其負擔ガ非常ニ重クナルノデアリマス、ソレ故ニ其金額ハ大體先ヅ三千圓ト云フモノヲ相當ト認メマシテ、サウシテ定メタモノデアリマスルガ、其詳細ニ至リマシテハ又委員會ニ於テ、詳シク事務的ニ御説明ヲ致ス機會ガアラウト思フノデアリマス

又第九ニハ個人ノ免稅點ヲ六千圓ト爲シタルコトニ付テ、政府ハ中小商工業者ノ利

益ヲドウ見ルカト云フ御問ノヤウデス、個人營業者ノ全部ヲ課稅ノ對象トスルコトハ、本稅ノ趣旨ヨリ見マシテ適當デナイトモナルノデアリマス、故ニ個人ノ營業者ノ中、利益ノ大ナラザルモノニハ此稅ヲ課ケナイソデアリマス、而シテ中小商工業者トハ、下ノ程度マデヲ中小商工業者ト見ルカト云ヒマス、是ハ中々正確ニ數字ヲ以テ言フ譯ニハ行カナイノデアリマス、ソレ故ニ先ヅ凡ソ六千圓、其以下ノ者ニハ此稅ヲ課ケナイト云フコトガ、穩當デアラウト認メタノデアリマス、ソレカラ又臨時利得稅ノ收入ノ見積ガ過小デアアル、之ニ付テ段々戰時利得稅ノ時ナドノ、増稅ノ初メテ行ハレタ時ノ收入ノ豫想ト、實收入トハ大變ナ違ヒガアツテ、何時デモ實收入ガ多イト云フ御説明デ御質問ニナリマシタガ、收入ノ見積ヲ立テマスノハ、是ハ中々當局者トシマシテハ困難ナ問題デアリマシテ、殊ニ新稅ニ付テハサウデアリマス、ソレデハドウシテ此見積ヲ立テルカト申シマス、先ヅ全國ノ稅務署ヲシマシテ調査セシムルノデアリマス、其調査シタルモノニ依ツテ、尙ホ今後經濟界ノ推移ヲ達觀シマシテ、幾分増加ヲ見積ツテ、是ナラ宜カラウト云フ所デ積ツタモノデアリマシテ、唯漫然ト目當ナシニ積ツタモノデアリアリマセス、決シテ殊更ニ收入ヲ過小ニ見積ツタト云フ譯デハナイノデアリマス、併シ今後ノ經濟界ノ盛衰如何ニ依ツテハ、固ヨリ先ヅ豫想ヨリハ多クナル方ニ近カラウト思フテ居リマス、ケレドモ何分此豫算ニ依ツテ、收入ガ幾ラアルト云フコトヲ豫算ニハ積ツテ出サナケレバナリマセスカラシテ、今日ニ於テハ出來得ルダケ最善ノ方法ニ依ツテ認メタモノデアリマス、從來

稅ノ收入ノ見積ニ於テハ、必シモ何時デモ見積ヨリ實收ガ多クカッタハ限ツテ居ラス、時ニ依ルト云フト減ルコトモアルノデアリマス、之ヲ又主管ノ省ニナツテ見マス、云フト、見積ヲ見積ツテソレダケノ收入ガナカッタト云フト、是ハ申譯ナイト云フヤウナ觀念ガ中々強イノデアリマス、故ニ多少用心深イト云フコトモナイトハ申シ上ガ兼ネルソレカラ第十一ニハ、臨時利得稅ヲ臨時稅ト爲シタル理由、度々申ス通り臨時利得稅ハ、此時局ノ影響ニ依ツテ景氣好轉シツ、アル營業ニ對シテ、課稅セントスルモノデアリマス、要スルニ現在ノ經濟界ノ跛行的情勢ニナツテ居ルコトハ免レヌノデアリマス、ソレナラ跛行的ニナツテ居ルカラシテ、之ヲ其均衡ヲ得ル爲ニヤツタノカト云フト、決シテソレハサウデハナイノデアリマス、故ニ將來ノ經濟界ノ情勢如何ニ依リマシテハ、或ハ之ヲ多少形ヲ變ヘテ、永續スルコトノ必要ガ起ルカモ知レマセス、或ハ臨時稅トシテ、他ノ一般稅制ヲ考ヘル時ニ於テ、是ハ廢メルコトニナルカモ知レマセス、故ニ臨時稅トシテ唯當分ノ實行スルヲ適當ト認メタノデアリマス、而シテ其當分ト云フコトハ、ドウ云フ意味カト云フヤウナ御尋ガアツタヤウデアリマスガ、當分ト云フコトヲ年月ヲ限ツテ言フコトハ、是ハ出來ナイコトデアリマス、矢張當分ト御承知ヲ願ヒタイ、又度々戰時利得稅ト本稅トヲ比較シテ、色々御意見ガアリマシタケレドモ、戰時利得稅ヲ課シタ時代ノ財界ノ狀態ト、今日ノ經濟界トハ色々ナ點ニ於テ趣ヲ異ニシテ居ルノデアリマス、隨テ今日ノ經濟界ノ景氣ノ好轉シタ其原因、又其金利、物價ノ騰貴ノ程度等、サウ云フコトニ於テ餘程

違ガアルノデアリマス、隨テ戰時利得稅ト本稅トハ一樣ニ行カヌ、趣ヲ異ニスルコトガアルト云フコトハ、是ハ當然ノコトデ、兩者ヲ比較スルト云フコトハ、今日出來ナイコトデアラウト考ヘマス、併ナガラ色々ノ御意見ハ、畢竟一般稅制ノ整理ノ御考カラシテ、續、御述ベニナツタ中島君ノ御意見ハ、一般稅制ノ整理ヲ考慮スル場合ニ於テハ、非常ニ有益ナ「ヒント」ヲ與ヘラレタルコトト考ヘマス、左様御承知ヲ願ヒマス(拍手)

(國務大臣伯爵兒玉秀雄君登壇)

○國務大臣(伯爵兒玉秀雄君) 臨時利得稅ニ關係致シマシテ、特別會計デアアル外地ニ、如何ニ施行スルカト云フコトニ對シマスル、中島君ノ御質問ニ對シテ御答申上ゲマス、臨時利得稅ハ臺灣、樺太ニハ、法人、個人トモ施行スル積リデアリマス、而シテ臺灣ニ於キマシテハ律令ニ依リ、樺太ニ對シマシテハ法律ノ委任ニ依リマシテ、之ヲ施行スル積リデアリマス、朝鮮ニ於キマシテハ、法人ノミニ施行スル積リデ居リマス、而シテ朝鮮ニ於キマシテハ律令ニ依リマシテ之ヲ施行スルコトニナリマス、南洋ニ付キマシテハ、今回ハ之ヲ施行セザルコトニナツテ居リマス、而シテ南洋ニ施行セザル所以ノモノハ、御承知ノ通り帝國ガ委任統治ヲ受ケマシテカラ、今日マデ僅ニ十二年デアリマス、其產業開發ノ中途ニアルノデアリマス、保護助成ヲ要スベキ時代ニアルノデアリマス、隨ヒマシテ現在ニ於キマシテ、營業ニ關シマスル課稅ノ制度モナク、又收益ニ對スル所得稅ノ施行モナイノデアリマス、斯ノ如キ理由ヲ以テマシテ、南洋ニハ之ヲ施行セザルコトニ致スノデアリマス、隨テ御尋ニナリマシタ南洋興發會社ニ對シ

ノ騰貴ノ程度等、サウ云フコトニ於テ餘程

テモ、此意味ノ課税ハ受ケナイコトニ相成
ルノデアリマスルガ、御承知ノ通りニ、南洋
興發ノ南洋ニ於キマスル事業ノ最モ重要性
ヲ有ツテ居リマスル砂糖ニ對シテハ、可ナリ
大ナル負擔ヲ出港税ト致シテ受ケテ居ルヤ
ウナコトニナツテ居リ、且ツ内地ニ於キマス
ル資産營業ニ付テハ、課税サレルコトハ勿
論デアリマス、朝鮮ニ於キマシテ此臨時利
得税ノ課税ノ基礎デアリマス昭和五六年
ニ於キマシテハ、個人ニ關スル所得税ノ施
行ガナイノデアリマス、又營業税ハゴザイ
マスルケレドモ、内地ノ營業收益税トハ稍、
趣ヲ異ニシテ居ルヤウナ事情ニナツテ居
リマス、前年施行サレマシタル戰時利得税
ニ於キマシテノ先例モアリマスルコトデ、
今回ハ法人ノミニ止メマシテ、個人ノ所得
ハ暫ク之ヲ見合ハスコトニ致シテ居リマス、
殊ニ朝鮮ニ於キマシテハ昨年、昭和九年ニ
於テ初メテ個人所得ヲ施行シタノデアリマ
ス、負擔ノ輕減ヲ圖リマスル爲ニ、昨年ニ
於キマシテハ其半額ヲ徵收スルコトニ致シ
マシテ、今年即チ昭和十年度ニ於テ、初メ
テ全額ヲ負擔スルコト云フ事態ニナツテ居ル
ノデアリマス、本年度ニ於キマシテ、初メ
テ個人所得ガ全額徵收サレル朝鮮ニ於キマ
シテ、之ニ直チニ臨時利得税ヲ課スルコト云
フ事柄ハ、如何ニモ朝鮮ノ事情ニ適シナイ
ト認メテ居ルノデアリマス、此理由ヲ以テ
マシテ差當リ朝鮮ニハ、個人ニ對スル臨時
利得税ヲ施行セズト云フコトニ致シテ居ル
ノデアリマス、大體此說明ヲ御諒解ガ願ヘ
ルコト、思ツテ居リマス(拍手)

(國務大臣林銑十郎君登壇)
○國務大臣(林銑十郎君) 中島君ノ私ニ御
尋ニナリマシタ箇條ハ、二箇條アルト考ヘ

マス、昭和十年度ノ資材整備費ガ一億一千
萬圓、十一年度ニナツテ一千七百萬圓、資材
整備費ガ十一年度ニナツテ俄然トシテ少ク
ナルノハドウ云フ譯カ、ソレカラサウ云フ
風ニ少クナツタラバ、軍需工業ガ俄ニ萎靡
スルヤウナコトハナイデアラウカ、其點ニ
付テドウ考ヘテ居ルカ、斯ウ云フ御尋ノヤ
ウニ考ヘマス、是ハ將來ノ軍費ト云フコト
ニ重大ナ關係ガアリマスノデ、少シク詳シ
ク説明ヲ申シタイト思ヒマス

此資材整備費ト云フノハ昭和七年、所謂
時局兵備改善案ヲ作リマシタ當時ニ、資材整
備ノ所要總額ト云フモノヲ決メタノデアリマ
シテ、是ハ大體當時御承知ノコト、思ヒマ
スガ、五億數千萬圓ト云フ計數ヲ出シタノ
デアリマス、所デ其資材整備ヲ昭和八年度
以降、所謂八年、九年、十年ト云フ風ニ、既
定繼續費デ三億數千萬圓ト云フモノヲ逐次繰
上ゲテ使用シマシタ、詰リ其資材ノ缺陷ヲ
成タケ早ク或ル程度ニ整備セヨ、斯ウ云フ
思想カラ此繼續費ト云フモノヲ繰上ゲテ使
用シタ、ソコデ五億數千萬圓ト云フ數ガ總
體ニ於テ資材ヲ整備スルノニ必要ダト云フ
中ニ、三億數千萬圓ト云フモノハ出來マシ
タト云フコトニナリマス、尙ホ茲ニ二億
ト云フモノガ殘ル、詰リ我國ノ資材ノ整備
ヲ或ル程度完全ニヤラウ、斯ウ考ヘマス、
尙ホ茲ニ二億ノ資材整備費ヲ要スルコト、
ウ云フコトニナル、併ナガラ其二億ヲ如何
ナル程度ニ於テ、如何ナル方法ニ於テ今後
充備シテ行クカト云フコトハ問題デアリマ
ス、隨テ十一年度以降ノ豫算ヲ編成スル場
合ニハ、此問題ヲ眼中ニ置カナケレバナラ
ス、詰リ資材ノ整備ヲソレニ於テ満足スル
カ、其満足出來ナイ狀態ヲドウ云フ風ニシ

テ咀嚼シテ行クカト云フコトハ、此十一年
度以降ノ豫算ヲ編成スル時ニ考ヘナケレバ
ナラス問題ト存ジテ居リマス、ソコデ此軍
需工業ガ、或ハ漸減スルコト云フコトガアル
カモ知レマセヌ、其點ニ付テハ此資材整備
ヲドウ云フ風ニヤルカト云フコトニ付テハ
只今申シタ通りニ其當時ニ於テ考ヘルノデ
アリマスガ、一面ニ於テ軍需工業ガ俄ニ萎
靡シテ行キ、經濟界ニ衝擊ヲ與ヘルト云フ
コトハ考ヘナケレバナラヌコトデアリマス
カラ、此點ニ付キマシテモ軍部ト致シマシ
テハ、設備ノ過大ナル擴張ヲ戒メル、或ハ
職工數ノ制限ヲ行フト云フヤウナ、相當ノ
對策ヲ講ジテ來テ居ルノデアリマス、又將
來ニ於キマシテモ急激ナル變化ヲ來サナイ
ヤウニ、目下研究ヲシテ居ル次第デアリマ
シテ、御心配ノヤウナ、俄ニ作戰資材ノ要
求ガ激減シテ、ソレガ爲ニ軍需工業ガ非常
ナル萎靡スルコト云フヤウナコトハ、先ヅ
ナイト云フ考デ居リマス(拍手)

(中島彌團次君登壇)
○中島彌團次君 總理大臣初メ各大臣カラ、
殊ニ高橋大藏大臣ヨリ親切丁寧ナル所ノ答
辯ヲ戴キマシテ、本員ハ大體ニ於テ満足ス
ル者デアリマスルガ、唯總理大臣ノ御答辯
ト、高橋大藏大臣ノ御答辯トガ、少シ喰違
テ居ル所ガアルヤウニ思ヒマスカラ、其點
ニ付テ一言質シテ見タイノデアリマス
即チ總理大臣ハ屢、此議場ニ於テ説明サ
レマシタ如クニ、初ハ増税シナイト云フ考
デアツテ、アト増税スルヤウナ考ニ變テ來
タト云フコトハ、災害ガアツタガ爲メデア
ルト仰シヤイマシタナラバ、果シテ然ラバ臨
時利得税ハ災害費ニ充テル所ノ御考ヲ有
テ居ル、其意味デアアルヤ否ヤ、此點ガ頗ル

私共ハ疑問ニ思ハレルノデス、災害ガアツ
ガ爲ニ臨時利得税ヲ起ストスルナラバ、是
ハ當然災害費ニ持ツテ行クト云フ所ノ結論
ニ到達スルヤウニ私共考ヘマスガ、如何ニ
御考ニナツテ居ルノデアリマセウカ、サウ
シマスルト、是ハ歳入ノ必要上カラ迫ラレ
タ所ノヤリ方デアリマシテ、即チ公債ヲ三
千萬ナリ四千萬ナリ出シタイノダガ、出スノ
ガ厭デアアル、即チ前藤井藏相ハ健全財政ノ
第一歩トシテヤラレントシタコトハ是ハ確
カデアリマス、當時ノ新聞紙ヲ御覽ニナラ
レマシテモ、亦財政會議ナルモノヲ突如
トシテ發表シタコトニ依ツテ非常ナル問題
ガ起ツタノデアリマスガ、ソレガ内政會議
會ト變ツタト云フコトニナツタノデアリマス
ルカ、私ハ其消息ハ知りマセヌガ、兎
ニ角モ財政會議ナル豫算ヲ見積ツテ
居ツタ、サウナレバ此臨時利得税ト云フモ
ノハ、所謂健全財政ノ第一歩デアルト云フ
コトハ、前藏相ノ即チ主義方針デアッタノデ
アルト私共ハ考ヘル、高橋藏相ハ前藏相ヲ繼
ガレタノデアリマスルガ、前藏相ハ又高橋藏
相ヲ繼ガレタト云フカラ、是ハ親子ノ關係
ミタイニ私共ハ立ッテ居ルト考ヘマス、サウ
シマスト今ノ高橋藏相ノ御説明ニ依リマス
ト、健全財政ノ第一歩デナイ、即チ收支均
衡ヲ得セシメンガ爲ノ第一歩デハナイ、斯
ウ言ハレタ、更ニ又其次ニ來ルベキ増税ト
云フモノニ對スル所ノ一ツノ計畫、即チ稅
制整理ノ計畫ノ第一歩デモナイ、斯ウ言ハ
レタ、是等ノ點、總理大臣ノ言ハレタ點ト、
高橋大藏大臣ノ言ハレタ點トヲ考ヘテ、頭
ノ中デ綜合シテ見マスナラバ、何ガ爲ニ三
四千萬圓ノ金ヲ取ラントスルノデアルカ、
私共ニハ一寸提案ノ理由ガ分ラナクナツテ

來タ、殘ル問題ハ一方デハ農村ノ如キ不景氣ニ苦シミ、生活ニ困テ居ル人ガアル、他方ニ於テハ所謂軍需景氣其他ニ依ッテ鼓腹擊攘シテ居ル所謂暴富ヲ來シテ居ル人ガアル、此貧富ノ懸隔ヲ調和センガ爲メ一ツノ刺戟劑トシテ、所謂社會正義ノ觀念カラ、不勞利得ニ重課スル所ノ理由カラヤッタト云フ所ノ、一ツノ清涼劑ノナ、或ハ一ツノ思想調劑ノ意味カラ、社會思想ノ激刺ナルコトヲ矯正センガ爲メヤッタ意味デアルカ、サウ云フヤウナコトダケガ後ヘ殘ッテ居ルヤウニ考ヘラレマシテ、歳入均衡ノ爲メニシテハ政府ノ見積リガ正當トスレバ、三四十萬ト云フ金ハ非常ニ少額デアラテ、二十一億何千万ト云フ豫算ニ對シマシテハ、僅カナ一ツノ役割ヲ爲シテ居ルニ過ギナイ、サウ考ヘテ見マス、何ノ爲ニ本稅ヲ提案シタノカ、藤井前大藏大臣ガ選ッテ今度ノ大藏大臣ニナラレマシテ、増稅禮讚論者ガ増稅反對論者トナリマシタノデアリマスカラ、此法案其モノハ高橋サンノ頭ニ於キマシテモ、一種ノ繼子扱ヒノ考ニナッテ居ルヤウニ私共ニハ感ゼラレル、立案者ト提案者及之ヲ實施セントスル責任者ガ異ル故ニ、其背景タル所ノ——提案理由タル所ノ「イデオロギ」ガ頗ル茫漠トナッテ來ルノデアリマス、是等ノ點ニ付キマシテ、私共諒解ニ苦シム點ガアルノデアリマスルカラ、今ノ點ニ付キマシテ大藏大臣及總理大臣御二人ノ、明確濤徹セル御答辯ヲ再ビ煩ハサントトヲ希望スル次第デアリマス

考ヘタノデアリマス、勿論收入ノ一部ニ致シタノデアリマス、唯國費ノ收入ニナルノデアリマスカラ、ソレガ何處ヘ使ハレルカト云フコトハ、明確ニ御答スルコトハ甚ダ困難ト思ヒマス

ルノデアアル、是ハ一體ドウ云フ譯カ、又増稅ニ依テ得ラレタ所ノ此歳入金ノ用途ガ全ク不明デアアル、只今中島君ノ質問ニ對シテ、總理大臣ヨリ御答ニナッタガ、唯收入ノ一部ニ當テ、居ルト云フダケノ話デアッテ、此臨時ノ收入ヲ臨時ノ使途ニ充當スルト云フ、大事ナ此増稅ノ目標ヲ外レテ居ルノデハナイカト思ハレルノデアリマス、又増稅ノ時期方法等ガ、從來政府ガ唱ヘラレテ來テ居ル所ノ主張、或ハ租稅ノ根本原則デアアル所ノ負擔均衡論、斯ウ云フモノカラ見マシテ、此臨時利得稅ト云フノモハ、吾々ノ主張シテ參リマシタ所ノ、所謂非常時利得稅ト其内容性質ニ於キマシテ、甚シク違ッテ居ルノデハナイカト疑ハレル點ガ多イノデアリマス、隨テ私ハ本案ニ對スル吾々ノ贊否ヲ決スル所ノ重大ナル參考ト致シマシテ、次ノ諸點ヲ改メテ政府ノ當局ニ御質問シタ

トナルヤ、突如トシテ臨時利得稅創設ノ意アルコトヲ明ニセラレタ、サウシテ經濟界ニ一大衝動ヲ起シタ、當時大藏省當局デハ其増稅金額ガ非常ニ多クナイ、少シバカリダト云フヤウナコトデ、其經濟界ノ衝動ノ擴大防止ニ努メテ御出デニナッタ、税金ノ多少ハ私ハ此處デ問フ者デハナイ、苟モ高橋大藏大臣ノ政策其儘ヲ繼承實行スルト云フコトヲ言ウテ來ラレタ所ノ岡田内閣乃至ハ藤井前大藏大臣ガ、其前言ヲ繼シテ、此新稅ヲ突如トシテ提出セラル、ト云フ事情ハ分ラス、是ハ一體ドウ云フ譯デアアルカ、新シイ國策ノ遂行上已ムヲ得ズ増稅セナケレバナラヌ必要ガアッタノデアアルカ、若シ新シイ國策ノ遂行上増稅ノ已ムヲ得ナイモノガアッタトスルナラバ、其國策ハ何デアアルカ、今中島君ノ質問ニ對シマシテ、災害ガアッタカラ増稅シタ、斯ウ云ハレタ、ソレナラバ災害ヲ救フ爲メ増稅ナラバ、此増稅金額ト云フモノハ歳出ノ方面ニ於テ眞先ニ之ヲ充當シテ置カナケレバナラヌ答デアアル、併シ唯收入ノ一部ニナッタト云フコトダケデアラテハ、所謂國策遂行ノ爲メ増稅デアルト云フコトハ出來ナイデハナイカ、是ガ私ノ聽カントスル所デアアル、又若シ何等ノ定見ナクシテ、又計畫モナク漫然トシテ増稅セントスルト云フコトデアッタナラバ、是ハ一體増稅ト云フコトハ意義ヲ成サヌ、又大藏大臣ノ高橋サンノ豫テノ持論カラ言ッテ、之ヲ今日一部階級ノ者ガ儲ケテ居ルカラ、其者カラ取ルノハ當リ前ダ、斯様ナ御説デア

○國務大臣(岡田啓介君) 中島君ニ御答致シマス、昨年各種ノ災害ガ相踵ギマシテ、又四圍ノ情勢ヨリ見マシテ、相當多額ノ國費ヲ要スルニ至リマシタ、然ルニ財界ハ跛行ノ景氣ニナッテ居リマシテ、一方デハ相當ノ利益ヲ得テ居ル者ガアリマスカラ、此方カラ利益ノ一部ヲ割イテ費フト云フコトヲ

○中村繼男君 只今議題トナッテ居リマス臨時利得稅法案ニ關シテ、御尋ヲ致シタイト思ヒマス、昨日來カラノ質問ヲ聽イテ居リマス、其中ニハ私ノ問ハントスル事柄ト或ハ交錯致シ、或ハ重複ヲ致シテ居ルヤウナ點ガナイデハアリマセヌ、併ナガラ總理大臣及大藏大臣ノ之ニ對スル御答辯ヲ聽イテ居リマス、議場ニ徹底ヲ致シマセヌ、ソレバカリデナク、其要點ヲ掴ムニ骨ガ折レルノデアリマス、隨テ私ノ質問中ニ或ハ前者ノ質問ト交錯ヲ致シ、或ハ重複ヲ致スヤウナ部分ガアリマシテモ、是ハモウ一度丁寧ニ御答辯ヲ御願致シタイト思ヒマス、私共ハ從來カラ中央地方通ジタル所ノ根本的ノ稅制整理ヲ、主張シテ參ッテ居リマス、又非常時利得稅ヲ創設スベキモノデアルト云フコトモ主張シテ參リマシタ、其非常時利得稅創設ノ理由ト云フモノハ、非常時ニ際シテ儲ケタ者ガアル一方ニ非常時被害者ガアル、此非常時被害者ニ對スル應急ノ施設ヲ講ズベキ財源ヲ得ヨウト云フノガ、此非常時利得稅提唱ノ私共ノ主張デアッタノデアリマス、隨テ私共ハ此觀念ニ立脚ヲ致シ、此意味ヲ有テ居ル非常時利得稅デアリマスカラ、私共ハ決シテ不贊成ヲ致スモノデハナイ、然ルニ今度ノ利得稅法案ヲ見マス、私共ノ考方ト色々ノ點ニ於テ違ッテ居ルノデハナイカト思ハレル點ガ少クナイノデアリマス

第一番ハ根本的ノ稅制整理ト飛放レテ是ダケノ、チッポケナ増稅ダケヲヤラレテ居

コトハ、屢、之ヲ中外ニ聲明シテ御出デニナッタ、然ルニ昨年ノ十一月、豫算編成ノ酬

○國務大臣(岡田啓介君) 中島君ニ御答致シマス、昨年各種ノ災害ガ相踵ギマシテ、又四圍ノ情勢ヨリ見マシテ、相當多額ノ國費ヲ要スルニ至リマシタ、然ルニ財界ハ跛行ノ景氣ニナッテ居リマシテ、一方デハ相當ノ利益ヲ得テ居ル者ガアリマスカラ、此方カラ利益ノ一部ヲ割イテ費フト云フコトヲ

第一番ハ根本的ノ稅制整理ト飛放レテ是ダケノ、チッポケナ増稅ダケヲヤラレテ居

コトハ、屢、之ヲ中外ニ聲明シテ御出デニナッタ、然ルニ昨年ノ十一月、豫算編成ノ酬

來テ居ルノデアアルカラ、我國ノ經濟界ハ増稅ノ負擔ニ堪ヘ得ルト云フ意味デ仰シヤツテ居ルノデアアルカドウカ、サウダトスルナラバ、今日ハ増稅ノ時期デアアルト云フコトニナルノデアアツテ、其次ニ言ハレタ所ノ財政整理、或ハ一般ノ稅制整理ト云フモノハ、後廻シニスルト云フ事柄ト少シ矛盾スルノデアナイカ、此點ヲ一ツ御伺致シタイノデアアリマス

又高橋サンノモウ一方ノ前提要件デアッタ所ノ財政ノ見透シ、是ハドウナツテ居ル、財政ノ見透シト經濟界ガ負擔ニ堪ヘルト云フコトガ、高橋サンノ所謂増稅ノ前提要件デアアルト致シマスナラバ、經濟界ハ好クナツタ、併シ財政ノ見透シガ付カスト云フコトデハ、矢張増稅ハ出來ヌデアナイカ、然ルニ今日茲ニ増稅案ヲ提ゲテ——茲ニ提案セラレテ居ルト云フコトハドウ云フ譯ニナルカ、片手落ノ是ハ提案デアナイカ、斯ウ云フコトニナルデアナイカ、ソコデ經濟界ガ増稅ニ適當デアアルトスルナラバ、此際一般ノ稅制整理ト並行シテ之ヲ實行スルノガ當リ前デアナイカト思フ、此處デ高橋サンハ臨時利得稅ハ特別ノモノニダケ課稅スル、所謂増稅ノ一部分デアアルカラ構ハナイ、斯ウ云フ意味デ先程ノ中島君ノ質問ニ對シテ答ヘラレタノカモ知レナイ、併シソレハ量ノ問題——私ノ間ハントスル所ハ、財政經濟ノ諸事情ヲ綜合シテ質ノ問題ト致シテ、今日ハ増稅ノ時期デアアルカドウカト云フコトヲ聽イテ居ル、即チ量ノ問題デナクテ質ノ問題カラノ高橋大藏大臣ノ御意見ヲ承リタイノデアアリマス

又増稅ノ前提要件ノ一部デアアル所謂財政ノ見透シ問題ニ付テ、私ガ御尋ヲ致サナケレバナラヌト考ヘマスノハ、軍部豫算ノ見透シノ問題、財政ノ見透シノ中デ最モ大切ナルモノハ、軍部豫算ノ見透シデアアルト云フコトハ申ス迄モアリマセス、果シテ然ラ

バ現在ニ於テ大藏大臣ハ、軍部豫算ノ見透シハドウ云フ風ニ御付ケニナツテ居ルノデアアルカ、勿論國際情勢ノ變化ニ伴ヒマシテ、軍部豫算ト云フモノモ亦變化スベキコトハ當然デアアリマス隨テ一概ニ的確ナル軍部豫算ノ見透シヲ付ケルト云フコトハ、是ハ何人ト雖モ至難ノ事柄デアアリマセウ、併ナガラ軍部豫算ノ見透シガ付カケレバ、的確ナル財政計畫ト云フモノハ出來得ナイデヤナイカト私ハ考ヘテ居ル、其的確ナル財政計畫ガ出來ナケレバ、行財政ノ整理モ亦増稅問題モ、其目標ヲ失ウテシマウデアナイカ、斯ウ云フ風ニ私ハ考ヘル、延イテハ——軍部豫算ノ見透シガ付カスト云フコトノ結果ハ、延イテハ産業對策或ハ農村對策ト云フヤウナ國策モ、亦之ヲ確立スルコトガ頗ル困難ナ状態ニ陥ツテ行クノデアナイカ、即チ軍部豫算ノ見透シヲ付ケルト云フコトハ國策ノ源デアアル、行財政ノ整理乃至ハ増稅ヲ爲スヤ否ヤノ根本義デアアルト、私ハ考ヘテ居ルノデアアリマスガ、此故ニ私ハ臨時議會ノ時ニモ、大藏大臣及總理大臣ニ此演壇ニ於テ申上ゲテ置イタ、即チ軍部豫算ノ見透シノ付クマデ、他ノ總テノ國策ハ之ヲ抛擲シテ顧ミヌトアツテハ、國務大臣トシテノ職責ニ悖ルモノデアアル、仍テ大藏大臣ハ自ラ進シテ國務大臣ノ一員トシテ、軍部豫算ノ見透シヲ付ケベキデアナイカ、斯ウ云フコトヲ私ハ申上ゲテ來タノデアアリマス、即チ此點ニ對シマシテ、現在總理大臣及大藏大臣ハ、如何ナル御考ヲ御持チニナツテ居ルカ、同時ニ軍部大臣ハ此點ニ對シテ如何ナル御覺悟ヲ御持チニナツテ居ルカ、之ヲ御承リシタイノデアアリマス

策トハ、言フ迄モナク國際情勢及國內的時局ノ現狀ヲ能ク認識ヲ致シテ、其禍根ヲ究メテ、之ヲ排除スベキ所ノ内外不動ノ對策ヲ指スノデアアリマス、國防、軍備モ必要デアラウ、更ニ國內的ニハ危機ニ瀕シテ居ル所ノ農漁山村乃至中小商業者ノ窮狀ハ、私ガ此處デ改メテ申ス迄モナイ、其對策ハ焦眉ノ急務デアアルト思フ、此内外ニ互ル所ノ時難ヲ克服スベキ所ノ國策ノ樹立ガ、正ニ今日ノ内閣諸公ノ最モ大切ナル重大ナル眼目デナケレバナラヌト私ハ考ヘテ居ル、此國策アツテコソ始メテ財政計畫アリ、茲ニ初メテ行財政整理ノ問題モ生ジ、増稅乃至ハ稅制整理ノ問題モ伴ウテ起ツテ來ルノデアナイカ、斯様ニ私ハ考ヘテ居ル、即チ端的ニ之ヲ申上グルナラバ、増稅アツテ然ル後ニ國策ガアルト云フ譯デアハナクシテ、國策ガ先ヅ出來テ、然ル後ニ其目的遂行ノ手段トシテ、増稅ガアルベキ筈ト私ハ考ヘテ居ル(拍手)然ルニ臨時利得稅ノ設ケラレタル所謂提案ノ理由、中島君ヲシテ言ハシムレバ、提案ノ理由ガ分ラヌ、斯ウ云フ風ニナル譯ハ一體ドウ云フモノデアアルカ、何モソコニ國策ガナイ、私ノ見ル所デアラフナラバ、國策ヲ背景トセザル所ノ漫然タル増稅ガ、増稅ト云フヨリハ是ハ増稅ダ、出タラ目ノ負擔增加ニ過ギヌデアナイカ、斯ウ云フ風ナ考ヲ持タザルヲ得ナイノデアアリマシテ、歲出アツテ然ル後ニ歲入ヲ計ルト云フ、此財政ノ根本觀念ヲ引繰返シテ居ラレルノデアナイカ、斯ウ云フ風ナ感じガセザルヲ得ナイノデアアリマス、即チ此増稅案ト云フモノハ、單ニ十年度豫算ノ辻褄ヲ合セシガ爲ニ、又一ツハ藤井前藏相ノ所謂健全財政、公債漸減、此健全財政ヲ裝ハンガ爲ニ、鐵道、通信、臺灣特別會計カラノ減債基金ノ繰入額ノ增加ガ一千七百餘萬圓アル、同ジク鐵道、樺太、朝鮮特別會計ヨリノ公債發行減額ガ千五百八十萬圓、所謂財源ヲ出セ、財源

ヲ出セト言ウテ、押リ出シタ所ノ是等ノ金、斯ウ云フモノト同様ニ、十年度ノ豫算ノ辻褄ヲ合セシガ爲ニ、擬裝ニ充當セラレテシマツテ居ルノデアナイカ、斯ウ云フ結論ニナツテ居ルノデアアリマス(拍手)即チ昭和十年度豫算ノ官僚的擬裝費用ガ一金三千万圓也トアリマシテハ、是デハ國民ハ浮バレヌト言ハナケレバナリマセス(拍手)此點ニ關シテ總理大臣及大藏大臣ノ御所見ヲ伺フノデアアリマス

第二ハ臨時利得稅ハ暫定的ノモノカ、稅制整理ノ前提デアアルカト云フ問題デアリマス、中島君モ臨時ノモノデアアルカドウカト云フ點ニ付テ御尋ガアリマシタ、併シ之ニ對スル御答辯ハ頗ル不得要領デアッタ、總理大臣ハ又島田君ノ本議場ニ於ケル質問ニ答ヘラレテ、臨時利得稅ハ所謂臨時デアアル、即チ一時的ノモノデアアルト云フ風ニ御答辯ニナツテ居ルノデアアリマス、ソコデ臨時的一時的ノモノダトスルナラバ、其歲入ハ臨時ノ歲出ニ充ツルノガ當リ前デアナイカ、是ハ先程モ申シマシタカラ繰返シマセヌガ、然ルニ臨時應急ノ費用ニ充テナイデ、所謂普通ノ恆久財源ト同様ニ、豫算ノ辻褄ヲ合セル財源ニ充當サレテシマツテ居ル、是ハ所謂臨時ト云フ性質ニ鑑ミテ、其歲出ノ仕方ガ惡イノヂヤナイカ、又ハ適用期間ノ點ニ付キマシテハ、當分ハ當分デアツテ、當分以上ニハ答ヘラレヌト云フ只今ノ大藏大臣ノ御話デアリマシタガ、是トデモドウ云フ時機ヲ見テ之ヲ改廢スルノデアアルカ、ソレ等ノ御考ハナクテハナラヌ筈ダト思フ、何デモ當分ハ當分デ通スト云フコトデアハイカヌ、ドウ云フコトヲシタイト思フ、其時ニハ是ハドウスルカト云フヤウナコトヲ見セテ、國民ニ安心ヲ與ヘテ置クト云フコトハ、頗ル必要ナコトデアナイカト考ヘテ居ルノデアアリマス、又其適用ヲ廢止セラレタ後ニ於ケル所ノ歲入ノ缺陷ハ、如何ニシ

額ガ千五百八十萬圓、所謂財源ヲ出セ、財源

額ガ千五百八十萬圓、所謂財源ヲ出セ、財源

額ガ千五百八十萬圓、所謂財源ヲ出セ、財源

額ガ千五百八十萬圓、所謂財源ヲ出セ、財源

額ガ千五百八十萬圓、所謂財源ヲ出セ、財源

テ補填セントセラル、カ、中島君モ此點ニ付テ御尋ガアリマシタケレドモ、其事ニ對シテハ、大藏大臣ハ明確ナル御答辯ヲサレテ居リマセヌ、私ハ斯様ニ考ヘル、成程臨時利得稅ト云フ名前ハ、臨時ニハ違ヒナイ、併ナガラ其因テ得タル所ノ歳入ト云フモノハ、假令臨時利得稅ト云フ名前ハ廢サレマシテモ、其歳入額マデモ同時ニ失ツテシマウト云フコトハ、現下及將來ノ財政上ニ鑑ミマシテ、到底是ハ不可能ナコトデハナイカト考ヘテ居ル、然ラバ何等カノ形デ歳入ダケハ——其増徴額ダケハ之ヲ失ハザルヤウニ御努メニナルコトガ當然ダト思フ、サウデアラナラバ臨時利得稅ト云フ名前ハ、コ、デ一時の御廢メニナリマシテモ、歳入ノ點カラ考ヘテ來タ場合ニ於テハ、臨時利得稅ハ所謂臨時ニ非ズシテ、恆久的ノ租稅ニ變革サレテ行ク性質ヲ有ツテ居ルト云フコトハ當然ト言ハナケレバナラス、此點カラ見マス時ハ、臨時利得稅ト云フモノハ、所謂臨時デナクシテ、稅制整理ノ前驅ヲ爲ス、前提ヲ爲ス、斯ウ云フ風ニナツテ來ナケレバナラスト私ハ思フ、然ルニ拘ラズ政府ハ——是ハ當初カラ總理大臣モサウデアリマスガ、臨時のダ、一時のダト言フテ、而モ其金額モ三千万圓トカ、四千万圓トカ、非常ニ小サクテ、而モ一時のデアルカノ如ク、鉅太鼓デ宣傳セラレルト云フガ如キハ、是ハ一種ノ國民ニ對スル欺瞞デハナイカト私ハ考ヘル、隨テ利得稅ノ創設ハ、實質上ノ稅制整理ノ前提デアルトスルナラバ、此處デ私ハ中島君ノ議論ニ似テ居リマスケレドモ、モウ一編繰返シテ申上ゲナケレバナラス、ソレハ所得稅法ノ改正行クノガ一番宜カッタノデハナイカ、此點デアリマス、勿論所得稅法ヲ改正シテ、他ノ租稅ハ其儘ニ抛テ置クコトハイケナイデハナイカト云フヤウナ御議論ハアリマセウ、併ナガラ稅制改革ノ如キ、國民經濟ニ至大ノ影響

ヲ與ヘルモノニ付キマシテハ、之ヲ漸進的ニ行フト云フコトハ、是ハ豫テ高橋大藏大臣モ其御主張ヲサウデアルト思ウテ居リマス、ソレハ結構デアアル、即チ斯ウ云フ國民ニ至大ノ影響ヲ與ヘルモノニ付テハ、漸進主義デ行ク、其爲カラスルナラバ、下カリト一遍ニ根本的ニ稅制ヲ引繰返スヨリ、段段ト行クト云フ意味ニ於テモ、臨時のナドト云フ胡亂化シノ言葉ヲ使ハナイデ、所得稅ノ改正ト云フコトデ堂々ト行ツテ、所得稅ノ目的ヲ達スルト云フコトガ恊巧デアリ、都合ガ好カッタデハナイカト、私ハ斯様ニ考ヘテ居ル(拍手)所謂臨時利得稅ト云フ單行法ニシテマシテ、而モ昭和五年、六年ヲ課稅ノ基準ニ御採リニナツタ、茲ニ見通スベカラザル大缺點ガアルト云フコトヲ御諒願ハナケレバナラス、先程中島君ハ昭和五年ヲ取ツタコトニ付テハ、半分ハ非常ニ宜シイヤウナ、又惡イヤウナ御話デ、ハッキリ聽キ漏シマシタガ、私ノ見ル所ヲ以テ致シマスル、此昭和五年六年ノ經濟界ノ最モ惡イ絶頂ヲ取ツタ結果トシテ、負擔ノ均衡ノ度合ニ許スベカラザル大缺陷ヲ生ジテ居ルト云フコトヲ申上ゲナケレバナラス、勿論昭和五年六年ヲ基準ニ採ツタ、隨テ昭和五年六年ノ儲ケノ少ナカッタ其者ハ、直チニ大キナ利得稅ヲ負擔シナケレバナラスデハナイカト云フ、ソレニ對スル緩和規定トシテ、法人ニ對シマシテハ七分ノ規定ガアルコトハ私モ承知シテ居リマス、即チ昭和五年六年平均利益ガ七分未滿デアツタ場合ニハ、ソレハ七分トシテ緩和シテヤルト云フ此規定ハアリマス、併ナガラ此七分規定ト云フモノヲ設ケマシテモ、事業ノ種類性質ニ依ツテ、其負擔ニ大ナル相違ヲ生ジテ來ルノデアリマス、即チ昭和五年六年ハ民政黨内閣ノ「デフレーション」政策ニ依ツテ、經濟界一

ト云フ案デアリマスガ、ソレハ一律ニ何業モ總テノ業態、種類ヲ問ハズ七分トシテ居ルカラ、茲ニ非常ニ無理ガ生ジテ來ル(拍手)即チ現在同一ノ資本金デ同一ノ儲ケヲ擧ゲテ居リマシテモ、五年、六年ニ儲ケテ居ルモノト、五年、六年ニ損ヲシテ居ル、或ハ七分以下ノモノデアルモノトデハ、直チニ負擔ガ違フ、現在カラ見テ、現在ハ同ジ資本デ同ジ收益ヲ擧ゲテ居ツテモ、負擔ガ違フト云フ結果ガ茲ニ生レテ來ル、殊ニ其結果ノ最モ顯著ニ現ハレテ參リマスモノハ、金融資本ト商工業資本トノ間ニ生ズル負擔ノ不權衡問題デアリマス、金融資本ハ民政黨ノ金解禁ト「デフレーション」政策ノ爲ニ、物價ハ下落シテ、圓價ハ騰ツタ、隨テ政治的ニハ金融資本ト云フモノハ其當時ハ擁護セラレタト云フ結果ニナツテ居ルノデアリマス、又金融業者ノ利益ト云フモノハ——金輸出再禁止ト云フモノハアリマシタケレドモ、金融業者ノ利益ト云フモノハ年ニ依ツテ非常ニ高下ガアルモノデハナイ、大體ニ於テ其收益歩合ト云フモノハ、是ハ政府ノ政策モ多少ハ影響致シマスケレドモ、産業資本ノヤウニハ其影響ト云フモノハ大キクナイ、其利益ト云フモノハ非常ニ高下ガナクシテ不動デアアル、所ガ之ニ反合ハ平均的ニ儲ケテ來テ居ル、所ガ之ニ反シテ商工業ハドウデアアルカト申シマス、商工業ノ資本ト云フモノハ政府ノ政策ヤラ、内外諸種ノ事情ニ依ツテ常ニ非常ニ是ハ亂動セラレル、儲ケ歩合ハ上ツタリ下ツタリ、端倪スベカラザル状態ニナツテ行ク、即チ此點カラ申シマスレバ金融資本ト云フモノハ、其利益ヲ擧ゲルニ付テノ危険性ト云フモノガ、非常ニ商工業ニ比シテ輕イト言ハナケレバナラス、商賣ノ危険ガ少イ、商工業ハ之ニ反シテ金融資本ニ比シテハ商賣ヲシテ行ク上ニ於ケル危険率ハ非常ニ多イト言ハナケレバナラス、ソコデ問題ハ唯ソ

レダケヲ考ヘテ來マシテモ、金融資本ノ方ガ産業資本家ヨリモ負擔力ガアツテ宜シイデハナイカト云フ結論ニモナル、所ガ此利得稅法案ニ依ツテ見テ行クトドウナルカト云フト、昭和五年、六年、即チ景氣ノ最モ惡イ盛リノ絶頂ヲ取ツテ、ソレヨリ多カッタモノニハ直チニ課稅スル、而モ七分ト云フモノダケハ緩和スルガ、ソレハ各業全部ヲ通ジテ七分シカナイノデアアルカラ、其時餘計儲カツテ居タモノト、非常ニ儲カツテ居ラナイモノトノ間ニハ、非常ニ不權衡ヲ生ジテ來ルト云フ結果ニナル、私ノ主張ヲハッキリ致シマス爲ニ、商工省ノ統計ニ基キマシテ其負擔力ノ割合ヲ見テ見マス、金融業、銀行、信託、貸金業等、是ハ商工省ガ取ツテ居リマス統計ニ據ツタモノデアリマスカラ、其積リデ御聽キヲ願ヒマス、會社數ガ千五百、此金融業者ノ千五百ノ會社ニ付キマシテ、其儲ケ歩合、五年、六年ノ儲ケノ割合ヲ見テ見マス、昭和五年ハ資本ニ對シテ一割一分三厘、昭和六年ハズツト減ツテ一割一分三厘ト雖モ六分六厘、平均致シマシテ、金融業者ノ収益率ト云フモノハ昭和五年、六年ハ八分九厘デアリマス、約九分デアリマス、保險ハドウデアリマスカ、保險ハ七十ノ會社ニ付テ統計ヲ取ツテアリマシガ、昭和五年ノ収益率ハ二割一分六厘、昭和六年ガ二割五分四厘、平均致シマシテ保險収益割合ト云フモノハ、二割三分五厘ト云フコトニナツテ居リマス、之ニ對シマシテ商工業ハドウデアアル、商工業ハ全國一萬ノ會社ニ付テノ統計ヲ取ツテアリマス、商工業ノ昭和五年ノ収益率ハ四分一厘、昭和六年ノ儲ケ割合ハタツタ三分七厘、平均致シマシテ結局三分八厘ト云フコトニナツテ居リマス、即チ昭和五年、六年——今ノ利得稅ガ基本トナサウトシテ居ル所ノ昭和五年、六年ノ各業態別ノ収益稅ヲ見テ見マス、商工業ハ僅ニ三分八厘、七分ニ滿タザルコト

遙ニ大デアル、保險ノ如キハ二割三分五厘、金融業者ハ約九分デス、サアソコデニ對シテ同ジク七分ヲ超過スルモノニハドンドン税金ヲ取ツテ行クト云フコトヲヤリマス結果トシテ、商工業ハ現在ノ收益ガ七分以上ノモノニハ即チ全部利得稅ガ課セテ行クト云フコトニナリマス、保險ノ如キハ現在ノ收益ガ二割三分五厘以上デナケレバ利得稅ハ課ラヌト云フ結果ニナル、商工業ハ八分九厘、即チ九分以上ノ利廻リデナケレバ利得稅ハ課ラヌト云フコトニナツテ來ル、即チ業態ノ種類ニ依テ斯ノ如キ不權衡ヲ生ゼシメテ居ルト云フ所ニ、昭和五年、六年ヲ取ツテ、而シテ單行法トシテ之ヲ制定シタト云フ所ニ重大ナ禍根ガアルト言ハナケレバナリマセヌ(拍手)又ソレバカリデハナイ、同一ノ商工業ト雖モ昭和五年、六年中ニ大ナル打撃ヲ受ケタルモノ程重稅ヲ課セラレルト云フ結論ニナツテ來ルノデス、實ニ矛盾シタ税金デス、ドウ云フ譯カト申シマス、昭和五年、六年中ニ大打撃ヲ蒙リマシタモノ、中ニハ、資本金ヲ切捨テ、シマツテ、サウシテ所謂減資ノ方法ニ依ツテ其缺損金ヲ補填シテ居ルモノガアル、サウ云フモノハ資本ヲ切下ゲテ缺損ヲ補填シテ居リマスカラ、現在ノ資本金ト云フモノハ非常ニ小サイ、其小サイ資本金ノ七分シカ引イテヤラヌト云フコトニナルカラ、超過利得、即チ臨時利得金額ハ非常ニ上ツテ行クコトニナル、之ニ反シテ缺損ハアツタガ、減資ヲシテ補填ヲスルコトモ出來ナイデ、其缺損額ト云フモノヲ今日モ或ハ有價證券ト云フ勘定ノ中トカ、或ハ貸金ト云フ勘定ノ中トカ云フヤウナ其資産勘定ノ中ニ大ナル缺損ヲ繰込マシメテ、今日マデ繰越シテ持ッテ來テ居ルモノ、是ハ將來ノ利益段々濟崩シニ其缺損ヲ埋メテ行カウト云フヤリ方デアル、其ヤリ方ヤルト、現在ノ大藏省ノ方針デハ、ソレハ繰越缺損ノ銷却デアル

カラ、ソレハ損金即チ經費ト認メル譯ニ行カヌト云フコトニナツテ居ルカラ、其銷却金ニマデモ利得稅ガ課セシマフト云フコトニナツテ、所謂昭和五年、六年ニ打撃ノ多ケレバ多カッタ程、今日ニ於テハ利得稅ガ多ク課ルト云フ結論ニナツテ居ル、此點ガ所謂單行法ト致シ、而モ昭和五年、六年ト云フモノヲ對象トシテ、ソレヲ根子ニ押ヘテ税金ヲ取ラウトセラレテ居ル所カラ生ジテ來テ居ル大缺點デアルト言ハナケレバナリマセヌ、ソコデ即チ今申シマシタ通り、此利得稅法ニ依ツテ課稅ヲスルコトニナリマス、金融或ハ保險ト其他ノ商工業トノ間ニ非常ナ負擔ニ不權衡ガアルト云フコトガ第一、ソレカラ同一ノ商工業ト雖モ其事業經營ノ基礎ガ愈々鞏固デアツテ、昭和五年、六年ニ於テモ何等ノ損害ヲ蒙ラナカッタモノニハ却テ輕クナツテ、其損害ノ大ナレバ大ナル程重稅セラレルンデハナイカ、所謂此負擔均衡ノ問題ハ根柢カラ打破ラレテ來マシテ、應能負擔ト云フコトガ租稅ノ原則デアル、ソレガ利得稅法ニ依リマス、無能負擔ニ逆轉シテシマフト云フ結果ニナツテ行クンデハナイカ、此點ヲ一ツ御伺ヲ致シタイ

ソコデ私ハ利得稅ヲ取ツテハナラヌト云フ考方ハ持ツテ居ラス、初カラ申シマシタヤウニ、吾々ハ戰時或ハ非常時利得稅ト云フモノヲ大ニ取ラナケレバナラヌト云フコトヲ申シテ來タ者デアリマス、併シ斯ノ如キ課稅方法ヲ以テシテ、果シテ財政或ハ經濟上ニ何等ノ惡影響ヲ與フルモノニハアラズト、政府ニ於テハ御明言ガ出來ルカ、或ハ大藏大臣ハ言ハレルカモ知レマセヌ、先程モ一寸中島君ノ質問ニ對シテサウ云フ意味ノコトヲ言ハレテ居ル、斯ウ云フ風ニ言ハレル、一體臨時利得稅ノ目的ハ、昭和五年六年以後ニ於テ、昭和五年六年ヲ境トシテ其後ニ多額ノ儲蓄ヲシテ取ラウト云フノガ利得稅ノ目的ダカラ、君ノ言フヤウニ負擔均衡バカリ言ツテ居ッテハ、チットモ取ルコトガ出來ナイカラ、ソレデ宜イデヤナイカ、其後ニ於テ餘計儲蓄ヲシテ者カラ餘計取ラウト云フノダカラ、是デ宜イデヤナイカト、斯ウ云フ風ニ言ハレルカモ知レマセヌ、素人聞キニハ成程一寸サウ云フコトガ背カレルヤウデス、併ナガラ臨時利得稅ト云フモノハ租稅デアルト云フコトヲ根本ニ御考ヘ願フ置カネバナラス、是ハ寄附金デハナイ、儲蓄者カラ幾ラカブツタクレバ宜イト云フ、所謂ブツタクリ主義ト云フヤウナ寄附金デヤナイ、利得稅デモ租稅デアル、租稅デアレバ負擔均衡ハイツ何時デモ根本觀念デナケレバナラヌト私ハ考ヘテ居ル(拍手)此點ニ付テ能ク御考ノ上御答辯ヲ願ヒタイト思フノデアリマス

次ニ資本金ヲ利益金額中ノ一要素トサレタ、是モ私ハ利得稅中ノ一ツノ缺陷デアルト思フ、現行第一種所得稅ニアリマシテハ、資本金十萬圓トカ二十萬圓トカ云フヤウナ、所謂資本金ノ非常ニ小サイ、個人會社ト、同様に個人會社ト云フヨリモ寧ろ個人ト同様ノヤウナモノニ對シマシテハ、資本金ヲ基準トシテ超過所得ヲ計算スルコト云フコトガ不當デアル、負擔ノ權衡ガ合ハナイト云フヤウナコトカラ致シマシテ、之ヲ改正セラル、議ガアツタコトモ私ハ聞イテ居リマス、即チ此資本ヲ一方ノ基準トシテ、其資本ノ何割ヲ超過シタルモノハ税金ヲ取ルノダト云フコトハ、理窟ハ宜イヤウデアアルガ、所謂個人會社ト云フヤウナモノニ付テハ、必シモ是ハ良クナイ、之ヲ改正シヨウト考ヘラレタコトハ洵ニ適當デアルト考ヘテ居リマスガ、其缺點ヲソククリ其儘此臨時利得稅ニ御移シニナツテ來テ居ルノデアリマス、隨テ弱小資本ノ者ガ却テ負擔ガ重クテ、資本金ガ大ナルモノ程却テ負擔ガ輕クナル、斯ウ云フ風ナ結論ニナツテ居ルコトハ御承知ノ通りデアリマセウ、ソコデ私ハ言フ、政府ハ單行法トシナイデ、所謂所得稅法ヲ改正シ、法人ニ對シテハ現在ノ超過所得ニ改廢ヲ加ヘマシテ、現在ノ超過所得計算ノ基礎タル資本金ニ對スル一割制度ヲ改メテ、之ヲ七分トカ八分トカニ低減スルト同時ニ稅率ニ加減ヲ致シ、サウシテ一方資本金ノ小サイ、個人ト同様ナ所謂弱小資本ノ者ニ對シマシテハ、之ヲ資本金以外ノ個人ト同様ニスルト云フヤウナ、別個ノ課稅ノ方法ヲ執ルト云フコトガ極メテ至當デハナカッタカ、又本稅ノ性質ガ總理大臣ノ言ハ言フケレドモ歲入ノ點カラ考ヘル場合、是ハ財政上ノ點カラ考ヘル場合ニ於テハ、是一ツノ恒久租稅ニナル、所謂稅制整理ノ前提要件ヲ爲スト云フコトニナツテ來テ居ルカラ、一時的臨時利得稅ト云フテ置イタ方ガ、所得稅法ノ改正ニ依ツテ行フテ置イタ方ガ、財政上モ經濟上モ極メテ至當デハナカッタカト考ヘテ居ルノデアリマスガ、此點ニ對スル御所見ハ如何デアリマスカ

次ニ臨時利得稅法ノ缺陷トシテ舉ゲベキ點ハ脫稅防止ノ規定ヲ缺イテ居ル點デアリマス、臨時利得稅ハ、法人ニアリマシテハ資本金ニ對スル一定割合ヲ超過スル者ニ課稅スルノデアリマスカラ、資本金ガ大デアレバ大デアル程利得稅ノ負擔ハ輕減サレルコトニナルコトハ申ス迄モアリマセヌ、果シテサウデアツタナラバ、所謂大ナル資本力ヲ有スル者、言葉ヲ換ヘテ言フナラバ富豪財閥、富豪財閥ハ其龐大ナル資本力ヲ利用致シマシテ、増資ニ次グニ増資ヲ以テシテ、竟ニ利得稅ヲ負擔スルノ機會無キニ至ルノデハナイカ、其結果ハ富豪ニハ利得稅ガ課カラヌ、然ラザル者ダケガ利得稅ヲ負擔スルト云フ結果ニナル筈デアアル、近來此傾向ハ甚シク世ノ中ニ盛ニナツテ來テ居ル、或者ハ増資ヲスルト云フコトハ目ニ立ッテイカヌカラト云フ

譯デ、事業ノ一部ヲ他ニ賣ツテ形ヲ採テ、其處ノ株式ヲ所有スル、即チ自分ノ持ッテ居ル所ノ一部ノ事業ヲ新會社ニシテ殖シテ行ク、斯ウ云フコトヲシテ實際上増資ヲ圖テ、超過所得乃至ハ利得稅ノ創設ニ備ヘント致シテ居ル者ガ多クイデアリマス、是等ハ所謂主トシテ富豪財閥ノ階級ニ屬スル者デアリカ、是等ヲ其儘ニシテ置クコト云フコトデアレバ、利得稅ハ富豪財閥ニ課カラズシテ、寧ロ其他ノ中産以下ノ所ニ利得稅ガ課カテ行クト云フヤウナ、飛ンデモナイ結果ニナルト思フデアリマス、此點ニ對シテ所謂脫稅防止ノ規定ヲ存シテ居ラヌト云フコトガ、大ナル一ツノ缺陷デハナイカト考ヘルデアリマスカラ、此點モ併セテ御意見ヲ承リタイ

最後ニ歳入見込ニ付テ私モ申上ゲタイト思ヒマス、先程中島君カラモ此點ニ付テハ御話ガアリマシタガ、洵ニ私ハ同感トスル所ガ多ク、十年度ガ三千九百萬圓、平年度ガ四千萬圓、是ハ非常ニ私ハ少イト思フノデス、去年ノ丁度第六十五議會ニ於キマシテ、昭和九年度ノ租稅ノ歳入見込ニ關シテ、私ハ其見積ガ非常ニ少イト云フコトヲ此壇上カラ申上ゲテ置イタ、其當時政友會ノ太田君デシタカ、政友會ノ諸君カラハ、寧ロ昭和九年度ノ政府ノ租稅ノ歳入ノ見積ハ過大ダト言ツテ、私ト全ク反對ノ意見ヲ言ハレタ方モアツタ、然ルニ結果ハドウデアツタカ、今日ノ實際ハドウデアレカ、私ノ豫言ヲ致シマシタ通り、私ノ推算デ行クナラバ八千萬圓ニ垂ントスル所ノ昭和九年度ノ自然増收ガ得ラレテ居ルト思フ、八千萬圓ト云フガ如キ實ニ龐大ナ自然増收デアル、是ハ言ヒ換ヘレバ政府ノ見込違デアルカ、然ラザレバ是ハ駭引ト言ハナケレバナリマセヌ、八千萬圓モ違フト云フヤウナコトニナツテ來タナラバ、サウ云フ見込違ガアツタトスルナラバ、是ハ當局ノ怠慢デアッ

タト言ハナケレバナラス、又駭引ダトスルナラバ、容易ナラザル所ノ欺瞞政治ト言ハナケレバナラス、何方ニ致シマシテモ、此歳入見積ニ關シマシテ、斯ノ如ク巨額ノ相違ガアルト云フコトハ、私ハ洵ニ遺憾千萬ニ思フ(拍手)而シテ今又臨時利得稅ノ歳入見込ニ關シマシテ、三千萬圓ト言ヒ、或ハ四千萬圓ト云フガ如キ、極メテ消極的ナ數字ヲ示シテ居ラル、ノデアリマス、サウシテ右ノ數字ハ私ノ知り得タ所ニ依リマス、是ハ昭和八年度下カラ、昭和九年度ノ上半期マデノ稅務署決定シタル金額ヲ根據トシテ居ラル、ノデアリカト私ハ思フ、昭和八年ノ下カラ九年度ノ上マデノ稅務署決定シタ分、ソレヲ基トシテ三千萬圓、四千萬圓ト云フヤウニ見積ツテ居ラル、ノデアリカト思フ、所ガ若シサウダトスレバ昭和八年ノ下カラ九年ノ上半期マデノ、稅務署決定シタ其事業年度ト云フモノハ何年ノ分カト云フト、大抵ハソレヲ七年下カラ八年上ノ分ヲ、即チ七年下及ビ八年上ノ景氣ヲ基準トシテ、今日ノ利得稅額ヲ算出セラレテ居ルノデアリカ、サウ云フ結論ニナツテ來ルノデアリカト思フ、サウダトスレバ七年度下或ハ八年上ノ景氣ト今日ノ景氣トガ非常ニ違ッテ居ルコトハ、是ハモウ有ユル統計ノ示シテ居ル通り、私ガ敢テ餘計ナ言葉ヲ言ハナクテモ宜シイ、即チ七年度下ト八年上トヲ基準トシテ利得稅ノ根據ト致シ、之ニ多少ノ加減ヲ加ヘラレタト云フコトデアツタナラバ、ソレハ少クナツテ居ルノガ當リ前、ソコデ結論トシテ私ハ三千万圓乃至四千万圓ト云フコトハ甚シクハ過少ニ失スル(拍手)恐ラク矢張六千万圓程度、或ハソレ以上ニ行クノデアリカト云フコトヲ考ヘテ居リマスガ、此點ニ對スル當局ノ御意見ハ如何デアリマスカ、此點モ併セテ、以上ノ四ツノ點ニ對シマシテ、ドウカ明確ナル御答辯

ヲ賜ランコトヲ御願ヒ致シマス(拍手)
〔國務大臣岡田啓介君登壇〕
○國務大臣(岡田啓介君) 中村君ニ御答致シマス、私ハ昨年増稅ヲシナイト申シタコトハ、是ハ確ニ言ヒマシタ、私ノ考デハ、一般の増稅ノ意味デアツタノデアリマス、其後多額ノ國費ヲ要スルコトガ起リマシタノデ、相當多額ノ利益ヲ得テ居ラル、方面カラ、臨時利得稅ヲ徵スルコトニ致シタノデアリマス、只今はハ恆久的ノモノデハナイカ、斯ウ云フ御質問デアリマスガ、是ハ此名ノ如ク臨時利得稅デアリマス、臨時ノモノデアリマス、又増稅ノ前驅デモアリマセリマス、是ハ見様ニ依リマシテハ、一部ノ負擔均衡トモ見エルカモ知レマセヌ、又政府ハ國民負擔均衡ノ爲ノ稅制整理ハヤリタイト思ッテ居リマス、併シ稅制整理ノ如キ、時機ト方法ガアルノデアリマス、殊ニ増稅ハ其時機ヲ擇バナカツタナラバ、國富ノ進展ヲ阻害スルヤウナ悲シムベキ結果ヲ生ズルノデアリマス、何レ稅制整理ヲ考ヘマス時ニハ、臨時利得稅ノ問題モ同時ニ考ヘナケレバナラスモノダト思ッテ居リマス、ソレカラ國防費ノ見込シガ付カナケレバ國策ハ立テラレヌデアリカ、國防費ヲ如何ニ見ルカ、斯ウ云フ御質問デアツタト思ヒマス、政府ハ國防費ヲ少クシ、國民ノ負擔ヲ輕減スル爲ニ、國際的ニハ協調平和ノ爲ニ努力ヲシテ居リマス、又海軍ノ軍備縮小、之ニ付キマシテハ一致シタル國論ノ支持ヲ得テ、公正妥當ナル主張ヲ致シテ居ルノデアリマス、是ハ私ハ大キナ國策ダト思ヒマス、之ニ向ッテ政府ハ目下努力中デアリマス、併ナガラ其結果ヲ茲ニ豫想シテ申上ゲルコトノ出來ナイノハ甚ダ遺憾デアリマス(拍手)

〔國務大臣高橋是清君登壇〕
○國務大臣(高橋是清君) 御答ヲ致シマスガ、大體ニ於テ只今總理大臣ヨリ御答ヲ致シタノデ盡キテ居ルト思ッテ居リマス、細カナコトニナリマスト云フト、是ハ稅務ノ技術ニモ大關係ヲ有ッテ居リマスカラシテ、委員會ニ於テ政府委員ヨリ、サウ云フ點ニ付テハ詳シク事務的ニ御説明ヲ致シタナラバ御諒解下サルコト、考ヘテ居リマス、承ッテ居ル中ニ少シク……抑、此案ヲ出シマシタ精神ニ於テ、前大藏大臣ハ健全財政ヲ主張シテ、ソレヲ早急ニ實現セント欲シテ、サウ云フ理想ヲ有ッテ居ル、其理想ノ爲ニ斯ウ云フモノヲ出シタノダラウト云フヤウナ、御疑念ガアツタヤウデアリマスガ、私モ此臨時稅ニ付キマシテハ、能ク前驅相カラ其考モ聽イテ居リマスケレドモ、是ハ其人ノ考ニシテ、公ニ其人カラシナイモノヲ、内輪デ聽イタ私ガ、此處デ公ニスルコトノ出來ナイコトハ當然デアリマス、併ナガラ其話ヲ聽キマス、是ハ其當時ノコトヲ考ヘテ見マスト、隨分思想ノ上ニモ影響ヲ有ツタコト、考ヘルノデアリマス、何分ニモ此軍需工業ト云フモノハ莫大ナ利益ヲ得テ居ル、人ノ羨望ノ的トナツテ居ル、斯ウ云フモノニ稅ヲ課ケヌノハドウ云フ譯カト云フ説ガ起ッテ居タノデス、ソレ故ニ如何ニモ……事態ヲ見マスト云フト、一方ニハ非常ニマダ景氣回復ニ浴セナイ部類ガ多クアルノデアリマス、ソコニ又改メテ災害ガ起ッテ來タノデアツテ、國民中苦ム者、困難ヲ感ズル者ガ益、殖エテ來タ、ソコヘ一方ニハ著シク目立ツテ、工業ノ或ル部分ハ非常ナ利益ヲ擧ゲテ居ル、而モソレハ何カト云フト、國ガ赤字公債ヲ出シ、ソレヲ元トシテ事業ヲ起ス、其事業ヲ興ス方ニ其資本ガ向イテ行ク、サウ云フ部類ニ當ツタ者ハ非常ニ利益ヲ擧ゲテ行クト云フヤウナコトガアツデ、サウ云フモノニ向ッテ此際臨時ノ利得稅ヲ課スルト云フトガ、正ニ此時勢ニ適シタ方法デアリカ、デ此事ハ別ニ取離シテ、一般ノ稅制整理ト取離シテ御考ヲ願ヒタイノデアリマ

シタノデ盡キテ居ルト思ッテ居リマス、細カナコトニナリマスト云フト、是ハ稅務ノ技術ニモ大關係ヲ有ッテ居リマスカラシテ、委員會ニ於テ政府委員ヨリ、サウ云フ點ニ付テハ詳シク事務的ニ御説明ヲ致シタナラバ御諒解下サルコト、考ヘテ居リマス、承ッテ居ル中ニ少シク……抑、此案ヲ出シマシタ精神ニ於テ、前大藏大臣ハ健全財政ヲ主張シテ、ソレヲ早急ニ實現セント欲シテ、サウ云フ理想ヲ有ッテ居ル、其理想ノ爲ニ斯ウ云フモノヲ出シタノダラウト云フヤウナ、御疑念ガアツタヤウデアリマスガ、私モ此臨時稅ニ付キマシテハ、能ク前驅相カラ其考モ聽イテ居リマスケレドモ、是ハ其人ノ考ニシテ、公ニ其人カラシナイモノヲ、内輪デ聽イタ私ガ、此處デ公ニスルコトノ出來ナイコトハ當然デアリマス、併ナガラ其話ヲ聽キマス、是ハ其當時ノコトヲ考ヘテ見マスト、隨分思想ノ上ニモ影響ヲ有ツタコト、考ヘルノデアリマス、何分ニモ此軍需工業ト云フモノハ莫大ナ利益ヲ得テ居ル、人ノ羨望ノ的トナツテ居ル、斯ウ云フモノニ稅ヲ課ケヌノハドウ云フ譯カト云フ説ガ起ッテ居タノデス、ソレ故ニ如何ニモ……事態ヲ見マスト云フト、一方ニハ非常ニマダ景氣回復ニ浴セナイ部類ガ多クアルノデアリマス、ソコニ又改メテ災害ガ起ッテ來タノデアツテ、國民中苦ム者、困難ヲ感ズル者ガ益、殖エテ來タ、ソコヘ一方ニハ著シク目立ツテ、工業ノ或ル部分ハ非常ナ利益ヲ擧ゲテ居ル、而モソレハ何カト云フト、國ガ赤字公債ヲ出シ、ソレヲ元トシテ事業ヲ起ス、其事業ヲ興ス方ニ其資本ガ向イテ行ク、サウ云フ部類ニ當ツタ者ハ非常ニ利益ヲ擧ゲテ行クト云フヤウナコトガアツデ、サウ云フモノニ向ッテ此際臨時ノ利得稅ヲ課スルト云フトガ、正ニ此時勢ニ適シタ方法デアリカ、デ此事ハ別ニ取離シテ、一般ノ稅制整理ト取離シテ御考ヲ願ヒタイノデアリマ

ス、先刻ノ御話ノ中ニ、收入ノ見積方ガ洵ニ少イ、或ハ五千万圓、六千万圓ト云フヤウナモノニナルダラウ、サウナッテ來ルト云フト、是ハ臨時ニシテ何時ノ時カ之ヲ廢メルト云フ譯ニハ行カナクナルト云フヤウナコトカラシテ、是ハ臨時ト云フモノデハナイト云フヤウナ御考ノヤウニ受取りマシタガ、勿論一般ノ稅制整理ヲ爲ス時ニ於テハ、納稅者ノ擔稅力ニ應ジテ不公平ノナイヤウニ課セナケレバナラヌ、ソレニ、種々地方ノ負擔ノコトモ考ヘテ改正ヲセニヤナラヌノデアリマシテ、其場合ニ於テ獨リ此今日御贊成ヲ願フ所ノ臨時利得稅ノ收入ヲ減ラシテハナラヌト云フヤウナ、サウ云フ小サナ所ニ拘泥シテハ、一般的ノ稅制ノ整理ハ出來ナイコト、私ハ考ヘテ居リマス、ソレ故ニ其御懸念ニ及バナイヤウニ思ヒマス、何レ稅制整理ヲスル時ニハ、其時ノ國民ノ負擔力、サウ云フヤウナモノヲ考ヘ、成ベク負擔ノ公平ヲ圖ルト云フコトデ、稅制ヲ改正スルノデアリマス、而シテ此稅制ノ改正ニ付テハ、先以テ軍部豫算ノ見透シガ付カナケレバ増稅ノ時デナイト云フ説ハ、是ハ御尤デ、私ナドモサウ考ヘテ居ルノデス、凡ソ此國費ノ將來ニ付テ見透シガ付カナケレバ、稅制ノ整理ヲ一般的ニ爲サント欲シテモ出來ナイコトデアリマス、又十分ニ國民ニ諒解サセルト云フ爲ニハ、凡ソ今日最モ多ク豫算ノ上ニ現レテ居ル所ノ國防豫算ノコトニ付テモ、先ツ今後此位ト云フ見透シガ付カストイカナイノデアリマス、サウシテ又一方ニハ財界ノ繁榮ガ益、繁昌シテ來マスレバ、稅制ヲ整理スル時ニ於テ、基準トスル所モ大ニ變ッテ來ルコトガアリマセウ、ダカラ此問題ヲ以テ、直チニ此稅制整理、將來如何ニスルカトカ、何時スルトカ、ソレトノ關係ハドウダトカ云フコトヲ詳シク御質問ニナリマシテモ、只今申ス通り、是ハ即チ臨時ノモノデアリマシ

テ、此臨時ノモノヲ將來永ク此通り續ケテ行クカ、行カヌカト云フコトノ見透シハ付カナイ、恐ラク之ニ拘泥シテ居ル必要ハナカラウト思フノデアリマス、又今日此臨時利得稅ハ一時ノ利益ヲ擧ゲル者ニ對シテヤルノデアリマスルカラ、假ニ只今ノヤウニ國防費ト云フモノヲ餘計要セス、隨テ軍需工業ト云ハレテ居ルモノガ、ソレ程ノ仕事ガ無クナルトナレバ、此臨時利得稅ヲ起シタ對象物ガ無クナルヤウナモノニナルノデアリマス、ソレ是レヲ考ヘテ見マスト云フト、今日ノ時勢ノ推移ニ依ッテ、稅制ノコトハ十分ニ廣キニ互ッテ考ヘニヤナラヌノデアリマスルカラシテ、適、此臨時利得稅法案ガ出タカト云ッテ、ソレニ一般的稅制整理ノ問題ヲ擔込シテ御質問ニナッテモ、十分ニ御答ノ出來ナイコトモ多クデアリマセウシ、又政府ノ考ヘ、決シテ是ハ他日行ハントスル稅制整理ノ前提トシテ設ケタモノデモナイノデアリマスルカラ、ドウカ左様御諒承ヲ願ヒマス(拍手)

〔國務大臣大角岑生君登壇〕

○國務大臣(大角岑生君) 御答ヲ致シマス、現在ノ計畫——計畫デハアリマセヌ、既ニ御協贊ヲ經タモノデアリマスガ、其事業ヲ繼續致シマシタト致シマシテモ、今年度ヨリモ來年ハ若干殖エルト云フ趨勢ニアルコトハ、此前櫻内君ノ御質問ニ對シテ御答シテ置イタ通りデアリマス、語ヲ換ヘテ申シマスレバ、此一兩年ハ削減ノ見込ハナイト申サナケレバナラヌト思フノデアリマス、ソレヨリ先ノコトニナリマスルト、結局軍縮會議ノ結果ヲ見ナケレバナラヌノデアリマスルガ、是ハ今折角交渉中デアリマシテ、其先ノ事マデ色々想像ヲシテ申上グルコトノ出來ナイコトヲ洵ニ遺憾ト存ジマス

○中村繼男君 只今ノ私ノ質問ニ對シテ總理大臣、大藏大臣、軍部大臣等、ソレノ御答辯ガアリマシタガ、其中ニハ了解致シ

タ事モアリマシタガ、マダ了解致サナイ部分モアリマス、唯大藏大臣ノ……

○議長(濱田國松君) 簡單デスカ

○中村繼男君 簡單デアリマスカラ自席カラ御願致シマス——臨時利得稅ノ創設ノ理由ノ一ツトモ申シマスカ、軍需インフレ等デ儲カッテ居ル者ニ對シテ税金ヲ取ルト云フコトハ、思想的ニモ必要デアルカノ如キ御口吻ガゴザイマシタ、是ハ或ハサウ云フ者モアルカト存ジマスガ、私ノ間ヒマシタ所ハ、思想的ニ必要ナ部分ガアツタカドウカハ別ト致シマシテモ、スル稅法其モノ、組立方デハ、負擔ノ權衡ヲ得テ居ラスデハナイカ、殊ニ同ジ商賣人ノ中デモ、基礎ノ鞏固ナモノト、サウデナイモノトアル、或ハ金融業者、商工業者、保險業者ト、斯ウ云フモノガ根柢ニ負擔均衡ノ原則ヲ守ルト云フコトガ租稅ノ信條デアルノニ、之ヲ打ち壞シテ居ルノデハナイカト、斯ウ云フ御尋ヲ致シタノデアリマス、ソレニ對シテハ御答ガアリマセヌデシタコトハ洵ニ残念ダト思ヒマス、併シ何レ他ノ機會デ質問スルコトモアラウト思ヒマスカラ、私ハ是デ質疑ヲ打切りマス

○議長(濱田國松君) 次ノ通告者杉山元治郎君

〔杉山元治郎君登壇〕

○杉山元治郎君 私ハ只今議題ニナッテ居リマス臨時利得稅法ニ付キマシテ、總理大臣、大藏大臣、商工大臣ニ質疑ヲ致シテ見タイト考ヘルノデアリマス、最早四人ノ同僚諸君ニ依ッテ、大體私ノ聽カントスル點モ明ニサレタヤウデアリマスルガ、私ハ農民大衆、勞働者大衆ノ立場カラ、尙ホ出來ルダケ重複ヲ避ケテ御伺シテ見タイト思フ點ガアリマスルノデ、尙ホ一二重複スル點ガゴザイマシテモ、今申上グルヤウナ資格ノ變ッテ立場カラデアルト云フコトヲ御諒承戴キマシテ、尙ホ御苦勞ナガラ御答辯ヲ

煩シタイト存ズルノデアリマス
今日ノ經濟機構カラ致シマスルナラバ「オッペン・ハイマー」ガ申シテ居リマスルヤウニ、持テル者ハ益、多ク持テ、持テナイ者ハ益、小サクナルト云フヤウナ状態デアリマシテ、曩ニ齋藤内閣ガ自力更生ヲ叫ビ、現内閣ガ自奮自勵ヲ申シテ居リマスレドモ、今日農村ノ或ル一人ノ人カラ一ツノ歌ヲ送ッテ參リマシタガ、其歌ニ依リマスルト「働ケバ働ク儘ニ困リ行ク逆シマノ世ヲ歎ク村人」ト云フ歌ヲ送ッテ參リマシタガ、斯ウシタ實情ハ申ス迄モナク今日ノ經濟機構ニ依ルコトハ明デアリマス、斯ウシタ意味合カラ致シマシテ、此資本主義ノ餘弊ト云フモノヲ、是正改革セナケレバナラヌト云フコトハ、私共ガ常ニ考ヘテ居ルバカリデナシニ、多クノ政黨ノ方々モ叫ブヤウニナッテ居ル次第デアリマス、此資本主義ノ餘弊ヲ是正改革致シマスルノニ、最モ平和ナ手段ハ、先ニ申島サンモ御話ニナッテ居ルヤウニ、稅制制度ニ依ルコトハ、是ハ平和デアリ、適當デアルコトハ申スマデモゴザイマセヌ、聞ク所ニ依リマスルト云フト、世界ノ樂土デアルト云ハレテ居リマスル所ノ新西蘭ガ此稅制ノ制度ニ依ッテ、即チ持テル者ヨリ多ク取ッテ、持テザル者ニ之ヲ與ヘテ行クト云フ所カラ致シマシテ、其平和樂土ガ築カレテ居ルト云フコトヲ聞イテ居ルノデアリマス、私共ハ斯ウシタ意味合カラ致シマシテ、此臨時利得稅ト云フモノガ設ケラレタト致シマスルナラバ、ソレニ贊成スルニ否カデハナイノデアリマスルガ、今マデ同僚諸君ノ質疑ニ對シマシテ色々ノ御答辯ガアリマシタケレドモ、尙ホ多少疑義ノ點モ存シマスガ故ニ、茲ニ尙ホ質疑ヲ重ねテ見タイト考ヘル次第デアリマス

第一ニ伺ッテ見タイ點ハ、曩ニ總理大臣ヨリ此稅制ヲ設ケタコトハ、國民ノ負擔ノ均衡ノ爲デアルト云フヤウナ御話ガアツタ、又

答辯ノ中ニハ、サウ云フノデアケレドモ、其收入ハ之ヲ明確ニ何レニ入レルト云フコト、何レニ使用スルト云フコトハ申スコトハ出来ナイト云フ御話デゴザイマシタガ、私ハ總理大臣ノ常ニ申サレテ居リマスル所ノ言葉、政策ハ豫算ノ中ニ盛ラレテ居ルト云フ所ノ其御言葉、若シ政策ガ豫算ノ中ニ盛ラレテ居ルト云フ所ノ言葉ヲ考ヘ、尙ホ國民負擔ノ均衡ヲ考ヘタ、斯ウ云フヤウナ點カラ考ヘマスナラバ、此稅ハ即チ窮乏致シテ居リマスル所ノ農村ノ爲ニ、ドウシテモ振當テラレナケレバナナイト考ヘテ居ルノデアリマス、又政府カラ吾々ニ御出シニナツタ所ノ昭和十年度ノ豫算綱要ニ依ッテ拜見致シマスルト云フト、又今大藏大臣ガ此臨時利得稅ヲ創設致シマシ理由説明ニ依リマシテモ、即チ是等活況ヲ呈シツ、アル産業ニ對シ、新稅ヲ設ケタ云々ト云フ言葉カラ、ハッキリト社會政策ノト云フ言葉ハ現ハレテ居リマセヌケレドモ、ドウシテ見テモ此文字ノ上カラ考ヘマスル時ニ、社會政策ノ意味ガ仄見ヘテ居リマスコトハ、疑フコトノ出来ナイ事實デアリマス、政府自身ガ言明セラレルヤウニ、滿洲事變以來一部ノ産業資本家ガ好景氣ニ惠マレテ居リマス、ソレヲ測リマス所ノ其「バロメーター」トモ言フベキ、先ニ中高サヲモ幾多擧ガマシタヤウニ、社債ノ増加或ハ新設擴張、資本ノ増加ヲ見マシテモ、洵ニ著シイモノガアルノデアリマス、昭和六年ハ四千六百萬圓、昭和七年ハ三千六百萬圓、昭和八年ハ九千五百萬圓、昭和九年ハ上半期ダケデモ五億圓ヲ突破スルヤウナ模様デアリマス、然ルニ一方農村ノ方ヲ見マスルナラバ、御承知ノヤウニ恐慌ニ次グニ恐慌デアリマシテ、更ニ昨年ハ全體的ニ天災ニ見舞ハレマシテ、此爲ニ先般救濟ノ臨時議會スラモ開カナケレバナラナカッタヤウナ次第デアリマス、斯ウ云フヤウニ我國ノ狀態ヲ見マス

ル時ニ、富ハ一方ニ集注致シマシテ、此爲ニ社會不安ヲ招クト云フコトハ、過去ノ事實ニ於テ見マシテモ疑ナキ事實デアリマス、故ニ儲ケテ居ル者カラ其一部ヲ税金ト致シマシテ徵收シ、ソレヲ惠マレナイ方面、例ヘバ農村ノヤウナ困ッテ居ル方面ニ之ヲ振當テルト云フコトハ、政府トシテモ當然ニ爲スベキコトデアルト考ヘルノデアリマス、吾々ハ豫算面ヲ見マシテ、是等ノ稅收入ハ今總理大臣ノ説明ニ依ルト、何レニ這入ツタカ分ラヌト申シマスケレドモ、全部ハ軍事費ニ吸收サレタノデアリカ、斯ウ云フコトヲ恐レルノデアリマス、ソレデハ益、軍需工業家ト云フ者ヲ潤スノミデアツテ、森田氏ノ話デアリマシタカ、只空廻リヲスルニ過ギナイノデアツテ、其目的趣旨、之ヲ創設致シマシタ所ノ精神ニ相反スルノデアリナイカト考ヘルノデアリマス、今中村氏ヨリ、此稅ハマダ輕微デアルト云フヤウナ話モゴザイマシタシ、大口氏ガ中央公論ニ述ベテ居ル所ノ其様子ヲ見マシテモ、私共モ此稅ハ資本家ニ取ツテ、マダ輕微デアルト云フヤウニモ考ヘルノデアリマス、兎ニモ角ニモ今此臨時利得稅ノ收入ト云フモノハ、國費ニ這入ツタノデアツテ、何處ニ這入ツタノカ明ニ申スコトハ出来ナイト總理ノ御答デアリマシタケレドモ、私共ガ曩ニ申述ベマスヤウニ、政策ガ豫算ノ中ニ盛ラレテ居ルト云フ所ノ言葉ヲ伺ヒ、又是ハ國民負擔ノ輕減ノ立場カラ爲サレタト云フ點カラ考ヘマシテ、之ヲハッキリ申スコトハ出来ナイト云フ言葉トノ間ニ、非常ニ矛盾ヲ感ズルノデゴザイマスガ故ニ、ソレヲモウ一度御苦勞デアリマスケレドモ、斯ウ云フ費用ハ國民負擔ノ輕減ト云フ立場、社會政策ノ立場カラデアルト致シマスルナラバ、困ッテ居ル所ノ農村、負擔ノ苛重ニ惱ンデ居ル方面ノ輕減ニ振當テルベキデハナカッタカ、左様致サレタカ、致サレナカッタカト云フコトヲ、モ

ウ一度ハッキリト聽キタイト考ヘルノデアリマス
 第二ニ伺ツテ見タイ點ハ、此臨時利得稅ハ最早公債發行ノ限度ニ達シテ來タカラ、所謂増稅ノ尖端トシテ現レタモノデハナイカドウカ、今總理大臣ハ一般の増稅ノ時期デハナイ、又サウ云フヤウニスル考ハ有テ居ラス、併シ一部ノ増稅ハ認メテ斯ウ云フヤウニシタノデアルト云フ御言葉デゴザイマスルガ、齋藤内閣ガ昭和九年度ノ豫算編成ノ方針ト致シマシテ、財政ノ内容ヲ強化シ、成ベク速ニ收支ノ均衡回復ノ素地ヲ作り、努メテ公債發行額ヲ減少セントス、斯ク聲明シテ居ルノニ基キマシテ、齋藤内閣ノ延長デアリマスル所ノ岡田内閣ニ於テ、藤井前藏相ノ所謂健全財政トナツテ現レタノデアリマス、當時ノ新聞ノ報道ニ依リマスルト云フト、藤井前藏相ハ昭和十年度豫算案ヲ立テルニ當リマシテ、歳出總額ヲ二十億二千八百八十万圓ト見込ミ、普通歳入總額ヲ十四億一千万圓、差引六億一千八百八十万圓ノ不足ヲ見積リ、此不足ノ中五億圓ヲ赤字公債ニ依リテ賄ヒ、残り一億餘萬圓ヲ増稅ニ依ラウトセラレタヤウデアリマス、即チ臨時利得稅カラ三四千萬圓、郵便料引上カラ三千万圓、鐵道特別會計カラ繰入三千万圓、合計一億圓ヲ得ヨウトセラレタヤウデアリマスルガ、色々閣議ニ於テ相當ノ論議ガアツテ後、後ノ方ニ二ツハ保留ニナツテ、唯臨時利得稅ダケガ殘ツタヤウデアリマス、即チ斯ウ云フヤウナ經過ト云フモノヲ見マスルト云フト、岡田首相ハ増稅ヲセナイ、一般の増稅ハヤラナイ、斯ウ申シテ居リマスルケレドモ、是ハ岡田内閣ノ増稅ノ尖端ト見ルベキモノデハアリマスマイカ、岡田首相ハ今申シマスルヤウニ、一般のハヤラヌト申サレマスルガ、然ラバ一般のハヤラナイト致シマシ

テモ、此臨時利得稅ト能ク似テ居リマスル所ノ、不勞所得ニ對スル所ノ税金、即チ相續稅ノ改正トカ、或ハ超過所得稅ノ改正トカ云フモノヲ行ツテ、是等ノ増稅ヲ行フ意思ガアルカドウカ、斯ウ云フコトモ私ハ大藏大臣ニ伺ツテ見タイト考ヘルノデアリマス
 先程申述ベマシタヤウニ、齋藤内閣ハ公債發行ノ減少ヲ期シ、恐ラク現内閣デモ同様デアラウト存ジマスルガ、併シ今日ノ社會情勢、經濟情勢、財政情勢カラ考ヘテ見マスルト、政府ガ赤字公債ノ増加ヲ好ムト好マナイトニ拘リマセズ、益々其發行ヲ餘儀ナクサレテ居ルデアラウト考ヘルノデアリマス、即チ其第一ノ理由ハ軍事費ノ膨脹デアリマス、昭和六年滿洲事變ノ始マリマシタ當時ニ於キマシテハ、僅カ三億九千九百萬圓デアリマシタモノガ、十年度デハ十億圓以上デアリマス、今日カラ見透シデ參リマスルナラバ、恐ラク十一年度、十二年度トナツテモ十億圓ヲ下リマスマイト考ヘルノデアリマス、本年度頃カラ平年化スルト前荒木陸軍大臣ガ仰セニナリマシタ滿洲事變費モ、一向ニ減少スルヤウナ傾向ガ見エマセヌ、斯ウ云フヤウナ事情ヲ參酌致シマシテ考ヘテ見マスルト、コ、暫ク、數年ノ間ハ國際的危機ヲモ迎ヘテ、軍事費ガ現狀ヲ維持スルデアラウト見ルノガ妥當デアラウト考ヘルノデアリマス、是ハ軍部大臣ノ見透シハドウデアアルカ、是モ伺フコトガ出来ルナラバ幸デアリマス
 第二ノ理由ト致シマシテ、借金ト恩給ガ年々増加致シテ居リマスル事デアリマス、今日公債ハ既ニ百億圓ト呼バレテ居リマス、此元利拂ニ少クトモ年々五六億圓ハ要ルデアラウト考ヘマス、又恩給年金ハ年々一億五千萬圓位要スルデアラウト考ヘマス、此軍事費、恩給年金、此二ツヲ合セテ見マシテモ十六億圓乃至十七億圓ヲ要スルノデアリマスルカラ、之ニ各省ノ豫算ヲ加ヘマスルナラバ、如何ニ切詰メテ見テモ、二十二

三億圓ニナルノデナイカト考ヘルノデアリマス、尙ホ農村ハ前述ノ通りデアリマシテ、農村巨款豫算ハ、政府ガ打切ラウト致シテ居リマシテモ、地方ノ要望ガ多クテ打切ルコトノ出来ナイヤウナ状態デアリマス、然ルニ一方歳入方面ヲ見マスルナラバ、此歳出ノ増加ニ比例致シマシテ歳入ハ増加致シマセズ、即チ昭和十年度ノ歳入豫算ヲ見マスルニ、經常部ハ十三億三千五百五十八万七千八百四十四圓、臨時部八億五千七百八十二万六千四百四十五圓、普通歳入一億百七十七万四千七百六十五圓、公債金七億四千九百六十五万六千八百八十圓、斯ノ通りデアッテ昭和九年度ノ經常收入十二億四千八百三十万圓ニ比較致シマスルト、八千七百餘万圓ノ増加デアリマススケレドモ、相變ラズ赤字公債ヲ七億餘万圓發行セザルヲ得ナイ状態デアリマシテ、斯ウシク状態ハ今後何時迄續クカ、殆ド底止スル所ヲ知ラナイ状態デアリマス、一方高橋藏相ハ、曾テ斯ウ云フコトヲ本議場ニ於テモ申サレテ居リマス、國民ノ引受餘力ヲ超エテ公債ヲ發行スレバ「インフレーション」ノ危険ニ陥リ、紙幣ノ價值ノ暴落、購買力ノ減退、生産不振ノ過程ヲ辿シテ、中堅階級ノ没落、國民ノ貧困化ヲ起シ易イ云々ト申サレテ居リマスルガ、百億圓ノ公債ヲ發行シ、今後之ヲ續ケレバ數年ナラズシテ百二十億或ハ百三十億ト云フヤウニナルデアリマセウガ、先日申氏ガ公債發行ノ限度ヲ尋ネラレマシタ時ニ、國民ノ公債ノ消化力ヲ見テ發行スル云々ト申サレマシタガ、公債ノ消化力トハ如何ナル財政的ナ基準ヲ指サレテ申スノデアルカ、若シ御示シテ戴クコトガ出来マスルナラバ幸デアリマス、私ノ見マスル所デハ、最早今日ハ増税ニ轉ズベキ時期デハナイカ、曾テ英國ガ千九百三十一年ニ「スノードン」ガ増税ニ依ッテ赤字財政ヲ克服致シマシタ、首相ガ一般の増税ノ時期ニ非ズト申サレマスルケレ

ドモ、曩ニ申述ベマシタヤウニ、戰時利得税ト同一ナ狀況ニアリマスル所ノ相續税或ハ所得税ト云フモノノ改正ヲ行ヒマシテ、其他擔稅能力ノアル者ニ新稅ヲ起シマシテモ、相當ニ歳入ノ増加ヲ圖ルコトガ出来ルト信ジマスルガ、前述ノヤウニ、藤井前藏相ガ増稅案ノ一ツトシテ此臨時利得稅ヲ採ラレタモノデ、今後岡田内閣ハ之ヲ第一歩ト致シマシテ、曩ニ申述ベタヤウナ全般的デハナクテモ、漸次特殊ノモノカラデモ増稅ヲ爲サル御計畫デアルカ否ヤ、御所見ヲ承ッテ見タイト思フノデアリマス

第三ニ伺ッテ見タイ點ハ、此法案ノ課稅ノ方法デアリマス、此點ニモ既ニ同僚諸君ガ觸レマシタガ、私モ尙ホ一言觸レサシテ戴キタイト思ヒマス、昭和五年六年ノ最モ財政的ニ惡イ時期ヲ基準トシタコト、或ハ以前ノ戰時特別利得稅トノ相違、斯ウ云フヤウナ點ニ付キマシテハ、中島サンノ御質問デ明ニナッテ居リマスカラ、重ネテ質問ハ致サウト存ジマセウガ、唯伺ッテ見タイコトノ一ツハ、何故ニ營業所得ノミニ此稅金ヲ課ケタト云フ點デアリマス、軍需インフレノ好影響ヲ受ケマシタコトハ、單ニ營業所得ノ増加ノミデハゴザイマセズ、寧ロ資本價格ノ増大ノ方ガ著シイモノガアルト考ヘルノデアリマス、例ヘバ三菱經濟調査所ノ發表ヲ見マシテモ、重要産業五十種ノ相場指數ヲ見マスルコト云フ、昭和六年一月ニ五〇デアッタモノガ昭和七年一月ニナルト六三、昭和八年ノ一月ニ八九六、昭和九年一月ニ一〇七トナッテ居ルノデアリマス、是等ノ産業會社ハ昭和五年六年當時カラ見ルト、資産ガ倍以上トナッテ居ルノデアリマス、私ハ單ナル營業所得ダケデハナク、ナル資本ノ増大ニ對シテモ課稅スベキデハナカッタカト考ヘルノデアリマス、曩ニ中島サンガ、米國ノ「エヌ・アール・エー」モ資本課稅ヲシテ居ルト云フ御話ガゴザイマシタ

ガ、若シ營業所得ダケノ課稅デアリマスルト云フト、曩ニ中島サンノ御話モゴザイマシタヤウニ、増資々々ト云フヤウニ増資ヲ致シマシテ、營業所得ト云フモノ、減少ヲ圖ッテ脱稅ヲセナイカ、若シサウ云フヤウナ不心得ナ資本家ガゴザイマスルナラバ、之ニ對スル所ノ處置對策ハドウスルノデアアルカ、斯ウ云フコトノ爲ニ米國デ執ッテ居リマスル所ノ「キャピタル・ストック・タックス」ノヤウナ制度ヲ御設ケニナル必要ハナイカ、此點ヲモ伺ッテ見タイノデアリマス、併シ或人ハ斯ク申シマスナラバ言フカモ分リマセズ、斯クスルト云フト專業繁榮ノ芽ヲ摘ム、併シ産業資本家ガ靜ニ國家全體ノコトヲ考ヘテ見マスルナラバ、儲ケテ居ル所ノ一部、増大シテ居ル所ノ資本、是ハ自分自身ノ力デナク、社會全體ノ御蔭ヲ以テ來テ居ルト云フコトヲ考ヘマスルナラバ、今申上ゲルヤウナ點ハ言ハレナイ筈デアアル、更ニ私ハ課稅方法ニ付テモ伺ヒタイノデアリマスルガ、是ハ中村サント重複スル點ガアリマスカラ、此分ハ省イテ置キマス

第四ニ、最後ニ商工大臣ニ御同致シテ置キタイ點ハ、臨時所得稅ノ制定ノ爲ニ、産業資本家達ハ其負擔ヲ勞働階級ニ轉嫁スルコトハナイカドウカ、斯ウ云フコトデアリマス、從來ノ情勢カラ致シマスルト云フト、資本家達ハ利益ガ少シデモ減少致シマスル、特ニ課稅ナドニ依リマスルト云フト、利益減少ノ理由ト致シマシテ、或ル者ハ勞働賃銀ノ低下ヲ、或者ハ勞働時間ノ延長ヲ要求致シマシテ、此資本家ニ課ケラレタ所ノ負擔ヲ勞働階級ニ轉嫁スルヤウナ状態デアリマス、今東洋經濟新報ノ調査ヲ見マスルト云フト、其一例トシテ紡績工ノ勞働状態ヲ見テモ、其一面ノ消息ハ窺ハレルト思フノデアリマス、能率ノ方面カラ見マスルト、大正十五年ニ二十四樹ヲ拵ヘタモノガ、昭和七年ニ二十二樹ヲ造テ居ルノデアリ

マス、ダカラ勞働者ノ生産増加割合ト申シマスルモノハ、五割七分ニ當ッテ居ルノデアリマスルガ、賃銀ハドウ云フ状態ニアルカト申シマスルト云フト、大正十五年ニ男工ガ一圓五十六錢デアッテ、女工ガ一圓十錢デアッテモノガ、昭和八年上半年期ニナリマスルト云フト、男工ガ一圓四十錢ニ下リ、女工ハ六十九錢ニ下落致シタノデアリマス、此下落割合ヲ見マスルト云フト、男工ノ賃銀ガ一〇%三、女工ハ三七%一、一方ニ於テ生産ガ増大シテ居ルニ拘リマセズ、賃銀ヲ尙ホ引下ゲテ居ルト云フヤウナ状態デアリマス、好景氣ノ場合ニ於テスラモ、斯ウ云フヤウナ状態デアルト云フコトヲ考合セマスルナラバ、若シ政府ガ三千万圓、四千万圓ノ臨時利得稅ト云フモノヲ課ケマスルト云フト、之ヲ口實ト致シマシテ、直接ニ勞働階級ニ其負擔ヲ轉嫁スルノデハナイカ、斯ウ云フコトヲ考ヘルノデアッテ、多クノ勞働階級ハ、此點ニ付テ非常ニ心配ヲ致シテ居ルノデアリマス、デアリマスガ故ニ、商工大臣カラサウ云フ心配ハナイトカ、若シサウ云フヤウナ不心得ナ資本家階級ガアルナラバ、商工省ハ斯ノ如キ對策ヲ執ルトカ、斯ウ云フヤウニハッキリ、勞働階級ガ此利得稅ノ爲ニ不安ニ思ワレ居ル點ヲ、一掃シテ戴キマスルヤウニ、明ニ御答辯ヲ願ヒマスナラバ幸デアリマス、以上ヲ以テ私ノ質疑ヲ終リマス(拍手)

(國務大臣岡田啓介君登壇)
○國務大臣(岡田啓介君) 杉山君ニ御答致シマス、杉山君ハ先程私ガ中村君ノ御質問ニ御答シタノ對シテ、此臨時利得稅ヲ負擔ノ均衡ノ爲メノ稅ナリト私ガ申シタヤウニ仰セナリマシタガ、私ハ左様ニハ申サナカッタノデアリマス、此臨時利得稅ハ、見様ニ依ッテハ負擔ノ均衡ト云フ方ニ見ラレルカモ知レズガ、併ナガラ國民負擔ノ均衡ヲ目的トスル稅制整理ノ前提デハナイ、斯

ウ申シタノデアリマス、此稅ハ國費多端ノ折カラ一部ノ方面ニ多額ノ利益ヲ得テ居ル者ガアリマスカラ、其利益ノ一部ヲ稅トシテ徵收スルノデアリマシテ、此稅ハ國防費ニ皆入ッテ居ルノダラウ、斯ウ云フ御尋モアツト思ヒマス、是ハ大分専門的ノコトニナリマスノデ、或ハ私ガ御答ヘシテハ不適當カモ知レマセヌガ、私ハ國防費ニ皆入ッテ居ルトハ考ヘテ居リマセヌ、是ハ總テノ費目ニ適當ニ按配セラレテ居ルト考ヘテ居リマス、又臨時利得稅ハ增稅ノ前提デハナイカ、政府ハ更ニ他ノ增稅ヲ考ヘテ居ルカ、斯ウ云フ御尋デアリマシタガ、臨時利得稅ハ增稅ノ前提デハナイノデアリマス、又政府ハ此外ニ增稅ヲスル考ヲ持ッテ居リマセヌ(拍手)

〔國務大臣高橋是清君登壇〕

○國務大臣(高橋是清君) 杉山君ニ御答ヲ致シマス、初ニ不勞所得ニ課稅シタラ宜カラウト云フ御意見ガアリマシタ、即チ相續稅ナド、モット稅ヲ高クシタラ宜カラウト云フ御意見デアアル、不勞所得ト云フコトハ、是ハ中々矢張ムツカシイ問題デ、例ヘバ公債證書ヲ持ッテ働カズニ、公債證書ノ利息ヲ收入シテ生活ヲシテ居ル、其收入ハ即チ不勞所得ニナル、或ハ株券ヲ持ッテ配當ヲ受ケテ、其收入デ生活ヲシテ居ル、是モ不勞所得トモ言ハレマセウ、而シテ勞働者、職工、農家、農民、是等ガ何デ不勞所得者ニナレナイカ、私ハ農民、職工總テノ者ガ不勞所得ヲ得ルヤウニサセタイノデアアル、不勞所得ヲ憎ムノハ何故デアルカ、ソコヲ私ハ諒解シ兼ネルノデアアル、ソレカラ第二ニハ、公債ノ消化力ノ基準ハドウデアアルカ、今日ハモウ公債ニ依ラズシテ、增稅ニ轉向スル時デハナイカ、斯ウ云フ御質問デアアル、今日直チニ公債ノ發行ヲ止メテ、增稅ニ依ッテ國費ノ需要ヲ充タスト云フコトハ、マダ其時機ニアラズト私ハ考ヘテ居リマス、然

ラバ漸次增稅ニ取掛ル考ハナイカト云フコトモ言ハレタ、是ハモウ毎度申上ゲテ居ル通り、其時機ガ來レバ其方法ヲ選ンデ著手スルコトハ當然ナコトデアアル、ソレカラ是ハ總理大臣カラ既ニ御答ニナッテ居リマスルガ、此臨時利得稅ハ、農村ノ方ノ救濟ニ用ユレバ宜イデヤナイカ、之ヲ矢張國防費ナドニ加ヘルコトハ不都合ダト云フヤウナ御意見ノヤウニ拜聽シマシタ、御承知ノ通り、租稅ノ收入ハ、一々區別ヲ立テ、使途ヲ定メテ居ラスノデアリマス、矢張是ハ總テ一般歲入トスルモノデアリマスカラシテ、其使途ヲ限ラザル方ガ適正デアラウト考ヘマス、ソコデ公債ノ消化力ノ限度如何ト云フコトハ、既ニ度々是ハ申シタコトデ、今此處デ以テ、此限度ノコトニ付テ繰返シテ述ベマス云フト、大分時間モ取リマシムルカラ、是ハ貴族院ノ本會議ニ於テモ詳シク述ベテアリマス、此處ニハ別段詳シイコトハ申シマセヌ、ソレカラ第三ニハ、財産増加稅ヲ施行スルノ意ナキカ、是モ或ル機會ニ私ガ申述ベタ通り、愈以テ廣汎ニ互ッテ我國ノ稅制ヲ整理スルト云フ場合ニ於テハ、是ハマダ私一己ノ考デアリマスガ、先ヅ國稅トシテハ所得稅ニ重キヲ置キ、所得稅ノミデハ負擔ノ權衡ヲ保ツコトガ恐ラク出來惡イカラシテ、之ニ加ヘルニ財產稅ヲ以テスルト云フコトハ述ベテアル、愈本式ニ廣汎ニ互ッテ我國稅ヲ調整シ、制定スル場合ニ於テハ、必ズ此財產稅ノコトモ併セ考ヘル必要ガアルト私ハ考ヘテ居リマス、併シサウ云フ場合デアリマスカラ、今日ハソレヲ考ヘル機會ニナッテ居ラスノデアアル、大抵是デ私ニ對シテノ御質疑ノ御答ハ盡キテ居ルト思ヒマス(拍手)

〔國務大臣町田忠治君登壇〕

○國務大臣(町田忠治君) 杉山君ノ御質問ニ簡單ナガラ御答致シマス、杉山君ハ臨時利得稅ヲ設ケル結果、多數勞働階級等ニ轉嫁サル、虞ガナイカト云フ御心配デアリマス、併シ直接稅、就中純收入ヲ基礎トシタル直接稅ニ於テハ、之ヲ轉嫁スルコトノナイト云フノハ、私カラ申ス迄モナク租稅ノ大體ノ見方デアリマス、殊ニ相當ノ限度ノ利益ヲ排除イテ、時局ニ依ッテ特ニ普通營業以外ニ特別ニ利益ヲ得タモノニ其十分ノ一ヲ課スルト云フ、極メテ緩和シタル臨時利得稅デアリマスルガ故ニ、事情カラ申シマシテモ、租稅ノ理論カラ申シマシテモ、多數ノ第三者ニ轉嫁シ得ラル、性質ノモノデナシ、轉嫁スベキ事情ノ下ニアルモノデナイト、斯様ニ確信シテ居リマス(拍手)隨テ左様ナ場合ニハ私ニ對策ヲ講ゼヨ、如何ナル對策ガアルカト云フ御尋デアリマスガ、私ハ斯様ニ考ヘテ居リマスルガ故ニ、左様ナ場合ノ對策ヲ今此處デ考ヘテ居リマセヌ、併シ萬一社會ノ他ノ事情ニ依ッテ、此新ニ設ケマスル稅法ガ、勞働階級ニ惡影響ヲ及ボスガ如キコトガ事實上アリトスレバ、相當ニ其節ニハ考ヲ致スコトハ申ス迄モアリマセヌ(拍手)

○杉山元治郎君 簡單デアリマスカラ、今大臣ノ御答辯ニ依ッテ大體諒承シタ點モアリ、尙ホ不審ノ點モゴザイマス、又今商工大臣ノ御親切ナ答辯ガアリマシテ、私共モ理論ハ其通りダト信ジテ居ルノデアリマス、ケレドモ事實サウデナイ場合ガ多イノデアリマスガ故ニ、是非商工大臣ニ此點ヲ御考慮願ヒタイト思ヒマス、何レ他ノ機會ニ於テ質問致シタイト思ヒマスカラ是デ……

○議長(濱田國松君)

○議長(濱田國松君) 是ニテ質疑ハ結局致シマシタ、本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リヲ致シマス
○青木雷三郎君 本案ハ政府提出、昭和十年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案外一件委員ニ併セ付託セラレントコトヲ望ミマス

○議長(濱田國松君) 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、次會ノ議事日程ハ公報ヲ以テ御通知申上ゲマス、本日ハ是ニテ散會
午後五時十五分散會

○青木雷三郎君 殘餘ノ日程ハ延期シ、本日ハ是ニテ散會セラレントヲ望ミマス

○議長(濱田國松君) 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、次會ノ議事日程ハ公報ヲ以テ御通知申上ゲマス、本日ハ是ニテ散會

午後五時十五分散會

衆議院議事速記第六號中正誤

頁	段	行	誤	正
八七	四	一	順化	醇化
八七	四	二	順化	醇化
八七	四	八	順化	醇化
八七	四	九	順化	醇化
八七	四	一七	順化	醇化
一〇二	三	二七	議中	議會中